

『河原林安左衛門日記』(四)

——丹波山国農兵隊親兵組の日記——

高久嶺之介

翻刻にあたっての凡例は次の通りである。

一 翻刻にあたって、原文に句読点を付した。

一 異体字・俗字・略字・合字・明白な誤字などは原則として正字の常用字体に改め、変体仮名は現行の字体に改めたが、江・者・茂・而・与・連・ふ(より)はそのまま用いた。

一 当時の慣用句については逐一注記しなかった。

一 原文中の墨抹は、文字の左側にククを付し、書き改めた文字のある場合、右横に書き改めた文字を「」で示した。

一 朱筆の文字はへゝで囲み、朱筆の○、△は右横に

へ朱を入れた。また朱筆傍線は傍線の右横にへ朱を入れた。

一 金銭出納覧には、墨印や朱印で㊦、㊧、㊨、㊩、㊪など印がある。㊪、㊫、㊬、㊭はすべて墨印、㊮、㊯は朱印の場合が多いが、墨印の場合もある。しかし、墨印の場合と朱印の場合とで明確な意味の違いはみうけられないことから、墨印、朱印の区別はすべて略した。また、㊰、㊱、㊲、㊳、㊴以外の印はすべて㊵とした。

一 貼紙の部分は「」で囲んで示した。

一 編者による校訂は( )で囲んで示した。

一 欠字・平出は一字あきとした。

一 原本で改行している所はそのまま改行したが、翻刻にあたって、一部日付部分で改行したところがある。

一 判読不能の文字は、字数の明らかかなものは字数分を

□で示し、不明のものは□ □で示した。

(表紙)

明治二年

印

日記帳

巳二月吉日

〔四番〕

一 正月晦日。早朝中天氣。前川五郎左衛門を拜借一件ニ付河(魚クイ)、河小、野彦一日延引ニ相成候得共、上京同道致、杉坂橋政中飯。野尻氏平五宿江御越、拙者、河庄屯所江着仕、其夜則屯所ニ而止宿致候事。

一 藤原井堰之願書之儀ニ付、水口氏、藤野氏、小島、西右、佐兵衛、横田新助面会。小島氏、佐兵衛、平五宿へ

止宿ニ御越之事。

一 二月朔日。上々天氣。五ツ時水口新屋敷へ入来。尚又小島氏、野尻氏、米田佐兵衛、横田新助、尚又藤野氏入来。段々前川借財之義種々示談仕候処、何分那波氏相頼申勘弁之(イ)儀一統申合候者昨冬迄之元利入上ケ、則当正月より八月朱ニ改、来ル七月中ニ銀高式分差入、残銀之処、拾ケ年賦、尤半季毎ニ差入可申約定ニ而一統右那波氏新屋敷相頼ニ横田、米田迎ニ参り候事。

一 小野社木屋ニ而一会。則那波氏御越被下、一統集会。右之次第拙者へ相頼ニ候処、御承知被下、篤亨相頼、御酒追々差出し、尤入用金四兩三步也、野尻氏扣之事。

一夜五ツ前時ニ皆々退出。夫々上七軒若松方江立寄、尚又一献相催し候而芸子六人計外ニ女中式人計呼、則那波氏、水口、藤野、拙者、野尻氏、小島氏、辻村源三郎、右前之人々夫々帰宿。則右之名前之衆中、彼是(カ)与夜四ツ半時ニ開き、尤那波氏、源三郎兩人止宿。拙者、小島屯所へ帰宿。野尻、水口、藤野おとも方へ帰宿之事。

一二日早朝。拙者髪月代入湯致し、則大雨降。彼是昼ニ

相成、昼後早々民部、山本先生之義ニ付、拙者蒸菓子巻箱買求、斎藤先生江參上持參。民部之義相断万端相頼申候而引取掛ケニ舟吉江寄、傘代相払、尚又挑置<sup>(就)</sup>、引取申候事。

一今出川室町木具又江立寄、室町木曾屋利兵衛へ年礼之節、泊り造用金札七両貳歩三朱、外ニ金札百疋者年玉差遣し、請取書取、尚又御札預ケ台七ツ木具又へ返濟約定ニ而相頼置、屯所へ帰宿。御酒肴献相催有之。則藤原井堰掛りニ而頂戴致し、其夜屯所ニ而止宿之事。

三日早朝大雨降。拙者、山本氏御祝儀色々相認、彼是四ツ時より右山本氏へ参上。山本先生様へ金貳百疋、金百疋御肴料、尚又外ニ飯米白米四斗代金札三両壹分一朱ト貳百文、勘定場へ相渡、家来中江金五拾疋、斎藤先生江金五拾疋拙者持參。尚又民部着用残り分明日貰ひに参上相頼、引取掛ケニたばこ半玉買求、屯所へ帰宿。半日ハ大雨降ニ而終日相休ミ、日記相認申居候処へ、新屋敷ハ水口氏、藤野氏書面至来。将又多将曹、西右内相尋ニ御立寄、明早朝御入来り、西氏御越被下候与申御引取、則河庄

公、西下部へ買物ニ御越、尚又野尻氏橋兵江御越、尤拙者下駄西氏傘持參ニ而下ニ而御泊り、河庄、西暮方屯所江帰宿。尤、小島平八皆々御酒相催し、皆々止宿致候事。一四日。中天氣。早朝西氏多氏へ御越、且又新屋敷江書状相認、万事相尋ニ遣し候処、水口氏、若代氏江御越之由帰り候事。

一山本家江民部残り道具取ニ則宇之助遣し取揃ひ持帰り候事。

一昼後早々水口氏入来。則社司願立之義、国元八日ニ参会之次第、那波義、且又多氏ハ被申候義、国元八日ニ参会之次第、那波氏前川江今日御越被下候様之次第種々歎願之義藤野相頼置、明日帰国之様子御断有之、御引取之事。

一林喜平次、清三郎、仙蔵入来之事。

一野尻氏終日相待、屯所へ帰宿無之事。

一高辻江買物宇之助ニ取ニ遣し持帰り候事。

一拙者終日屯所ニ罷居、河庄色々対談。夜五ツ時ハ辻子へ用向ニ付、拙者下り辻子ニ而止宿致事。

一五日。上々天氣。則喜太郎、おまき、辻子ニ而泊り

居、種々咄し有之。將又則大宮并善之口是又種々咄し有之。入湯髪月代丹新尾張万藤清買物ニ参り、夕方屯所へ帰宿。

一御室本多氏、藤野氏入来。且又前川氏之義、中々六ヶ敷、尚又五ヶ村横新、米佐、藤野、西善、河庄、拙者相談致し、今一応先方へ那波氏分明日ニ而茂相頼可申約定ニ而西氏私用ニ而上々江御越、藤野、横新引取、皆々止宿致ス事。

一六日。上々天氣。早朝平五江仙蔵を呼ニ遣し、將又野上寅吉上京入来。則仙蔵ニ山科家買物之材木引合之義嗟峨へ頼ニ参り呉候様相頼置、拙者、西氏、与七、買物旁々下辺江罷出候事。

一祇園小林花之家中飯。三人共致、夫々西氏橋仙へ行、拙者と相別連、則松原大丸ニ而買物色々致、夫々所々江立寄買物致、夕方辻子へ帰り、其夜辻子ニ而止宿之事。

一七日。早朝中天氣。則在所々善吉右六日上京ニ而尋ニ参り、尤かれ拾六枚持参。尤大々之分夫則材小入用分遣シ申、五ツ半時分尚又買物ニ善吉召連、下敷之下夕江参

り候事。

一高辻ニ而兩掛ケ式荷買求、夫々松原大丸店ニ而買物。夫々寺町ニ而買物等致、尚又所々江寄中飯。辻子ニ而支度。則小島喜太郎面会。彼是風雨ニ而困り入候処へ、屯所分与七迎ニ下り候ニ付、七ツ時分屯所江帰宿。其夜皆々止宿之事。

一夜五ツ半時藤野氏入来。県知事歎願ニ付、馬路表出張之序手ニ御用状沓箱、酒五升持参可致様申置候ニ付、此段頼ニ被参候。此段承り早々御引取之事。

一八日。焼六ツ時前分大風雨ニ而皆々困り入候。小島平八郎馬路表出張。沖茂早々出立難出来見合居候処、新屋敷藤野氏分形為持被下、夫々社司之願書調印致し、則夫江返却。且又昨夜頼之御用状并ニ酒五升持参。小島平八郎、宇之助召連、四ツ半時より出立。雨少々雨あかり候事。

一昨日山国江遣し候飛脚、水口氏より返状持参。皆々雨ニ而終日相休ミ申、尤家来善吉滞留致、其夜皆々止宿之事。

一九日。雨天時々時雨致ス。朝天気。野上寅吉帰村。家来善吉、宇之助留主中ニ付、滞留為致候事。

一拙者、河庄、西右内下辺江買物旁々同道ニ而参り、繩手美の佐中飯、酒肴。尤家来善吉召連、尤金巻両式分ト貳百文、河庄払扣へ所々立寄、彼是夕方帰宿致す。

一留主中ニ而兩度那波氏御尋被下候趣、折節三人共他行ニ而相濟不申候。則与七承り候。將又其夜者屯所ニ皆々止宿之事。

一字之助、馬路々夕方屯所へ帰京致ス事。則水口氏返書持歸り拜見致候事。

一十日。早朝大寒冷。則下部善吉国元江荷物持歸り、弁当持参之事。但し菓子代金札卷朱同人へ相渡ス。

一拙者山科家江材木并ニ大工之義相断、万端頼之筋詞<sup>(ことば)</sup>旁々参上仕候処、則山科氏大宮様今明日御わた増<sup>(つ)</sup>ニ而留主中故不得御意候。早々引取申候事。

一西右内新屋敷那波氏頼有候前川一件相尋旁々参上候へ共、弥張同様之咄しニ而、尚又先方思召茂御座候間、其辺ニ而尚追々御厚配頼入度段相願、早々御引取、中飯前

皆々打添候而相談し候事。

一拙者私用髪月代致し、下辺所々江立寄、買物相調、夕方屯所へ帰宿之事。

一西右内、山科家江拙者一件相尋旁々所々江立寄、暮六ツ半屯所へ帰宿之事。

一河清々同家へ進上之字ニ而御酒肴献相催し、河庄公辨源へ行、屯へ帰宿同様御酒之事。

一西氏暮半山科家々帰宿。則右之字ニ而御酒肴席、拙者別用有之。辻子江夜五ツ時々下り、其夜辻子止宿之事。

一十一日。上々天気。早朝賀礼ノ大式枚若代、氏江持参。

面会。神祇官拜任願書相頼、木場へ立寄。夫々屯所江立寄、宇之助へ兩掛ケ跡金相渡、昼後ニ取ニ遣し候様置、

外ニ安本々水口兩名手紙至来。被見仕<sup>(ま)</sup>、尚又下モへ下り、近与江立寄、喜太郎相尋申候処、留主中ニ而辻子へ下り中飯ひるニ而御酒肴献之事。所々買物相廻り、夕方暮時ニ屯所へ歸り候処へ

一正親、為吉召連、上京。其夜皆々屯所ニ而止宿之事。

一十二日。早朝上々天気。拙者山科家江参上。御茅輪御

用ニ付、江戸奉供之義被仰候ニ付、万端大工米吉召連、則山科家普請之義材木差送り之義相談致し、且又大掌會(書)兩殿、將又功田之儀内々由緒書葉室殿江執奏之辺取次相願有之候間、早々右由緒相認、葉室殿江急々差出し可申様、且拙者下調進之義近日相詞砂汰可致与被申、万端承り早々屯へ帰宿之事。

一尚又河内山氏江正親連、拙者兩人同道ニ而承り候処、折節留主中ニ而、則外江一兩軒参り四季ニ而中飯支度。尚又相尋申候得共、未タ帰陳無之候故、猶明早朝参ル与申引取、則六角袋や風呂敷買求、色々買、辻子へ立寄、七ツ時後ニ屯所江帰宿。其夜止宿之事。

一西氏、星野氏へ参上。尚昼後御室本多江御越、掛違、尚又夕方井上氏面会旁々伊丹惣江参上。其夜同家ニ止宿之事。

一七ツ半時、小島平八郎馬路を嵯峨へ廻り、屯所へ帰宿。夫々山本家へ御越被成候事。

十三日。早朝中天氣。国元別家河藤市売物之儀ニ付在所を呼ニ遣シ候間、其儀ニ付、拙者帰宅。尚又家来兩掛ケ

宍荷紙卷式為吉江為持召連、帰村致、則彼是五ツ半時ニ相成候。

一杉坂橋政中飯支度仕、中村小休。鳴之堂休ミ、彼是七ツ時帰村。則西右内公宅へ立寄、尤棗刀掛ケ卷ツ相渡し、尤河庄公入来、面会。暮方拙者家来帰宅致ス事。

〈明治二巳年〉

一二月廿六日。中上天氣。則山科家より御茅輪製作人下調進役、此度朝廷供奉相願候処、御聞濟ニ相成、出府被仰付、則来ル三月六日出立之御沙汰之飛脚至来ニ付、拙者、小弥太、家来宇之助召連、則昼飯後早々西右内公へ立寄、上京。杉坂小休。暮半時ニ上京着。則屯所皆々止宿之事。

但し、西右内明廿七日昼迄ニ急度上京之約定致有之候事。

一廿七日。上天氣。早朝屯所そうじ致、拙者宍人山科家江参り、先達而之次第、面会致、色々御礼延引之御断、則廻礼之御方口々御名前、此所書相尋相認、昼前ニ帰

宿。若哉西右内今昼ニ上京いたし候ハ、昼後早々兩人差遣し候間、相頼置滞宿致候事。

一 昼前ニ御室本多氏入来。中飯且夕飯。其夜屯所ニ而止宿。翌五ツ時ニ御帰官之事。

一 西氏、家来和兵衛召連、則今日、尚又山科家ノ飛脚山国江参り候ニ付、同道。八ツ半時ノ出立。夜五ツ半時屯所へ上京。夕方支度屯所ニ而皆々止宿之事。

一 進上物之黒大豆卷斗式升買求メニ字之助差遣し、尤卷升卷貫七百五拾文ツ、代金式兩三朱相渡し、且又三の紙ニ而袋挑、右進上物四軒へ相拵置候。

一 小弥太中立売木場江行、其夜止宿致候事。  
一 廿八日。上天氣。早朝右廻礼之手続、則西氏髪月代夫々支度致候事。

一 水口氏入来。則昨廿七日上京。新屋敷止宿。五ツ半時屯所へ入来。種々国元之御咄し有之。彼是四ツ時ニ相成、拙者始西氏、小弥太、山科氏へ参上。則水口氏、若代氏へ御越、右三人山科家参上致事。

一 山科氏御所江御参代。留主中ニ而夫々小弥太、右内兩

人家来和兵衛右之黒大豆為持廻礼ニ早々参り、則御掛り左之通り御座候事。

御取次役

田中村 渡辺出雲守様

非蔵人

上御靈之前 松室石見様

右同断

高野村神主 松室甲斐様

官人

丸太町川東 壬生官務様

右之通、四軒江夫々名札持参御礼、兩人参り無滞罷出、則黒大豆三升宛何連茂皆々参り、山鼻中飯支度之由、夕方兩人共屯所江帰宿之事。

黒大豆三升袋

名札

進上	丹州山国
国産	河原林小源太
西	右内

丹州山国	
河原林小源太	
西	右内

右外ニ式軒明日廻礼之手續リニ御座候。尤左ニ相記し申

候。

地下官人  
武者小路

押小路大外記

弁事長  
荒神口河原町

坊城大納言

御茅輪制作人

今度出府御用罷〔被〕

仰付難有仕合奉

存候右御礼申上候

丹州山国

河原林小源太

加役

西 右内

右之名札持参ニ而明日廻礼ニ可罷出約定之事。

一拙者昼前ニ山科家ノ帰宿。則西山氏入来。堀川京屋中

飯。七ツ半時木場米吉出府之供頼ニ参り、其段承り、尚

明早朝返事致、宇之助下も夕方帰り、辻子ノ急談有之

ニ付、明早朝屯所へ入来之由。皆ニ臥草止宿之事。

一廿九日。上々天氣。廻勤之支度仕居処へ、辻子おかね

入来。河藤芝居又有栖川貸所之義申参り、右之義示談承

り、早々引取、彼是四ツ時ニ相成、夫々拙者始小弥太、

右内三人ニ而押小路大外記御礼ニ罷出、夫々河原町荒神

口坊城殿江御礼罷出、無滞相濟、夫々小弥太買物ニ参り

候ニ付、則金札式両相渡、夫々拙者西右内兩人木屋町長

州下宿四番有吉庄平旅宿へ西右内参り、拙者、長松文

輔、則六番江参り、正親ニ面会。種々相咄、彼是四ツ半

時ニ相成、西勢太召連買物ニ罷出候事。

一三条河原町西へ入処ニ而みの式ツ買、制願寺四季ニ而

拙者、西右内、勢太三人中飯支度致し、夫々所々買物ニ

同伴。彼是七ツ時ニ相成、尚又三条通堀川ニ而相分連、

勢太帰る。西右内上へ帰、拙者辻子へ立寄、御酒肴啗献

催し、其夜用向在之。河藤之一件ニ付右ニ相掛り止宿致

候事。

一晦日。上天氣。早朝拙者辻子ノ高辻江戸行之両掛ケ買

求ニ参り、外ニ所々買物ニ参り、尚又昼前ニ辻子江帰

り、夫々買物致居候処、河原林氏、榮吉入来。則金札四

拾両当分借用御酒肴献差出し、榮吉引取、則小袖買入、

金札式拾兩茂兵衛家内へ相渡ス。夫々七ツ時ニ屯所へ帰

宿致事。



一今朝御所の小源太、右内呼ニ参り候故、小弥太、右内

兩人参り候。則御所御台所へ参り候得者右取次虫麻衛門

尉面会。則当度供奉御手当金兩人江七拾九兩貳朱ト錢七

百文頂戴家来江金壹兩貳步被下、都合金札八拾兩貳步貳

朱手形ニ而請取、尤兩替町押小路下ル會計掛り役所ニ而

右手形与引替請取帰宿。夫の西右内山科氏并松室石見様

へ御礼荷物ほし、万端相詞（まこと）申、夕方帰宿事。

但し、御台所虫麻氏取次ニ而右金札請書調印差出し申

候事。

尤御菱輪製作人加役兩人之義ニ而御手当被下候事。

一御室本多帶刀夕方入来。則西氏帰宿相待、面談。刀一

件示談有之、早く御引取之事。

一小弥太、伊勢長へ行、其夜同所ニ而止宿致、将又其夜

雨降りニ相成候事。

一国元の飛脚幸助上京。宅の書状持参。則返事相認メ送

り候事。

一三月朔日。大雨降。早朝西氏私用罷出候。昼前ニ帰

宿。尚又下辺へ買物ニ参り候而、拙者終日留主致候而出

府之拵致候事。

一朝四ツ半時河原林喜間太、長松公御供御所の立寄、昼

飯支度。早く尚又御所へ帰候事。

一同刻、野尻浜太郎入来。種く御頼、則国元へ今日帰村

之事。

一小弥太昼飯後早く下の帰宿致候事。

一夕方西右内下辺買物の帰宿。寒冷相催し、皆く屯止宿

之事。

一二日。早朝寒天氣。銘く出府支度、買物ニ罷出候致、

尚又弘方書出し等有之処、米屋平九江金札拾兩丈ケ相渡

し、夫より拙者始小弥太、西右内同道ニ而下辺江右買物

ニ罷出、則四ツ前相成候事。

一竹屋町鎌倉屋陣笠者ツ買求、夫より寺町ニ而所く買

物、木屋町長州下宿江罷出、正親、勢太面会。種く申入

置、外ニ拙者の正親へ用意金相渡し、尚又長松先生へ鴨

川名産進上。且又家来金札壹分貳朱貳人へ心付ケ早く引

取申候事。

一中飯四季亭ニ而三人中飯并御酒。夫の三條ニ而小弥太

買物、相分遣、夫の繩手古門前迄西氏同道。夫の相分遣、西右内、谷尾宇兵衛江被行候事。

一拙者古門前、嵯峨福田三郎左衛門借宅へ立寄面会。則一昨年貸附有之候金返却之儀段々及引合ニ候処、来ル三月廿日頃迄相待與候様申、無抛段々掛ニ合申候得共、何分夫迄是悲相待可申様押而相頼ニ付、無抛其節迄相待可申間、其節急度返弁可被下様頼置、夫の外二人々被參、夫の茶屋へ同伴。其夜先方ニ而一宿。翌早朝屯所へ帰宿之事。

一三日。寒天氣。則拙者、福田三郎左衛門借宅の五ツ時ニ屯所へ引取、帰宿。夫の彼是昼後小弥太下辺江買物ニ行、尚又金札五兩相渡ス。拙者諸帳面といたし終日留主番入湯、其夜ハ屯所ニ而止宿之事。

一西右内七ツ時伊丹屋へ行、其夜屯江帰宿無之事。  
一西おかねどの入来并ニ勢太明日出立ニ付、入来ニ参り、早々帰り候事。

一四日。上々天氣。早朝山科家へ御礼之品物相調、西右内、幸助同道ニ而上ミ河内山宅へ御越、其跡山科家

の呼ニ参り候間、尚又進上物持参ニ而西右内相尋、早々山科江参上。則兩掛ケ札山科ニ相頼、相認貰ひ、早々西右内跡へ入来。万端相頼置、兩人共引取、則燈灯屋へ寄

帰宿。昼飯支度留主番致ス。終日支度之事。

一河原林喜間太入来。中飯支度後早々引取申候事。

一辻啓太郎入来。暫時御咄し早々引取之事。

一河原林小弥太買物へ帰宿之事。

一西右内下辺へ買物ニ佐市召連連夕方屯所へ帰宿之事。

一西源吉上京。則夕飯支度、夫の上伊丹屋へ御越之事。

一国元へ飛脚幸助上京。包持参之事。

一佐市木屋町六番長松様下宿迄喜間太着用物差遣し候事。

一御室本多帯刀見立錢別上茶花橋半斤茶入共被下候。尤

小弥太、右内兩人へ被下、夕飯支度、早々御引取之事。

一家来佐市、木屋町喜間太ニ差遣し候事。

右引残り、拙者小弥太并ニ卯之介、和兵衛屯所ニ止宿之事。

一五日。雨天。早朝河原林忠次郎父宗十郎、小弥太、正

親兩人へ見立旁入来。則錢別金札百疋ツ、被下候而早々御引取被成候事。

一 早朝小弥太飯札切手之儀ニ付、則非藏人松室石見殿方へ尋ニ参り、尚又松安江垂之儀ニ付段々引合候処へ山科氏御入来ニ而、えほし丈ケハ奥田ニ有之、ひたゝれハ来ル十五日ニ山科氏之荷物ニして江戸へ差送る約定。尤えほしハ山科氏ヲ持参被具候。右兩家共参り、朝飯前ニ屯所へ帰宿致候事。

一 追々強雨ニ相成、則西右内、源吉并幸次郎帰宿。則河内山之下部被参、炭之咄し有之。則幸助、和兵衛帰村致ス事。

一 小弥太、右内買物取寄、出府拵イ致候事。

一 拙者山科家へ武用弁略八冊持参。髓ニ御預ケ申候事。

一 佐市名代尚又佐市召連、此段相頼兩人承知致事。

一 河原林庄五郎并ニ為吉上京。則河庄公木場江西山氏同道ニ而御越被成止宿。尤為吉屯所ニ止宿之事。

一 拙者夜通し出立之拵致ス。將又外ニ日記并ニ帳面致、西右内伊丹屋方へ御越、皆々源吉小弥太拙者止宿之事。

一 多將監様御見立旁々御入来。則御菓子被下、尤西右内、河原林小弥太右兩人へ被下、早々御引取被成候事。

一 六日。上々天氣。早朝西右内、小弥太、松室石見殿方江参上。同道ニ而、尚又御所江罷出、人足切手并ニ燈灯式張蠟燭式袋半請取、帰宿。夫々今日出立之支度。早々小弥太山科家江御礼旁々参上之事。

一 河原林小弥太、西右内外ニ家来老人出立。則伝馬所江人足連ニ小弥太参り、則御門ニ而右人足持合候事。

一 見立則拙者、河原林庄五郎、清三郎、西山彦市外ニ多將曹御見立被下、御長櫃式指し御会府弥々五ツ半時御門出門寺町広小路罷出、寺町丸太町迄見送り申、皆々引取申、木場へ立寄、御酒肴献頂戴ニ而早々帰宿之事。

但し皆々様々錢別被下候事。

一 井上省吾并ぬし吉外ニ同道ニ而屯所江見立旁々御入来。御酒肴献相催し、中飯支度。早々下辺江参り候而皆々御引取之事。

一 拙者、河原林庄五郎、同清三郎見立旁々、河原林正親方へ木屋町六番同道。則錢別被下候。尤西山彦市是又錢別

被下候。則河庄、河清兩人勝手ニ私用ニ御越之事。

一拙者、長松様へ面会。種々相頼、早々引取申候事。

一拙者伊勢長へ参り、種々御断表室屋太四郎へ面会。夫

橘(橘ク)仙吉江参り、種々示談。夫々辻子へ立寄、則夕方

屯所へ帰宿。其夜止宿之事。

一星野因幡介入来。則弓削村々之儀御咄し、西氏見立之

儀御断、将又菓子被下頂戴、彼是五ツ半時御引取之事。

一七日。極早朝雨天。拙者山科家御東幸御日限供奉ニ付

皆々御礼見立旁々参上。尤跡ニ成夫々御所江参上。御東

幸拜見。夫々若代木場へ立寄、早々帰宿。尤小弥太、若

代ニ而当借金返済。夫々屯所之跡方付西右内持分取調、

終日屯所ニ罷在候。河庄公、西源吉銘々私用。夕方屯へ

帰宿。其夜皆々止宿致候。則夕方々雨降相成候事。

一八日。早朝上々天気ニ相成、則家来為吉右塩式俵持、

国元へ帰村致ス。

一河原林庄五郎并ニ西源吉同道ニ而下辺江遊覽、且又拙

者入湯。今日より湯錢四拾八文ニ相定申候。拙者入湯ニ

参り候。右兩人夕方屯所へ帰宿之事。

一拙者終日屯所西右内諸荷物分取調、宇之助ニ伊丹屋へ  
送り候而諸事相改申候事。

一河原林宗十郎七ツ時ニ入来。則先日見立之節風情無之

故、京屋々香品取寄、御酒肴献差出し、彼是夜五ツ時前

ニ相成、夫々平五宿迄御引取、則燈灯肴張貸申候事。

一九日。中天气。早朝西源吉国元江帰村。拙者入湯。夫

々下辺江参り候事。夫々所々江行、尤尾張万へおかね紙

入色々頼ニ参り、夫々辻子へ行。用向片付、其夜辻子ニ

止宿之事。

一十日。中天气。四条近濱へ打掛ケ小袖相頼旁々、且又

橘仙江刀見世ニ参り、外ニ成木屋久太郎へ立寄、こくら

山江参詣。久々庄七ニ面会。種々相咄し、色々帰り掛ニ

所々買物。尚又辻子其夜止宿致ス事。

一河原林庄五郎帰国。早朝弥々帰村被致候事。

一鳥居河内守并ニ小市郎上京。則屯所其夜止宿。尤逗留

之事。

一十一日。上々天气。八坂神社御千度之願有之。尤倅正

親々相頼候間、則右亀次郎兩人御千度ニ参詣。尤本人三

百度廻り有之候ニ付、兩人式百度相廻り、尚又小堀之駕屋へ五百度三分金札式朱相渡相頼、早々帰宿致候。

一松屋弥助辻子ニ入来。則有栖川貸附之口、尚又芝居売捌之口兩様共色々相談致、万端相頼候処、昨年来喜太郎相渡し候金子之儀、段々取調申候処、則、一金拾兩壹度、一金五兩壹度、尚又昨冬一金拾三兩都合金式拾八兩喜太郎相渡し有之様被申居候。其段承知致、尚又売掛之儀相頼置、早々御引取事。

一六角通西洞院東へ入材木屋本人入来。尤神吉村仁左エ門弟ニ御座候処、是又縁談之義種々相咄し、万端承り早々御引取被成候事。

一十二日。天氣。早朝々尾張屋万助へ参上。尚又色々下辺、且又寺町辺江買物あつらひニ参り、其夜同所ニ止宿致事。

一十三日。中上天氣。早朝三宅八幡宮江参詣。赤山玉山へ参詣。山鼻中飯致候折柄雨降出ス。早々引取、則広小路上ル荒神口近藤江立寄、傘下駄拜借、尚又辻子へ帰宿之事。

但し、其夜大雨降ニ相成候事。

一十四日。寒上々天氣。辻子へ屯所江早朝ニ帰宿。則、鳥居河内守面会致、夫々鳥居氏并ニ小市郎親類へ御越、拙者屯所宿油蠟燭色々私、酒屋庄三郎私、所々相渡し、<sup>(金ク)</sup>□□屋江行、正親、吉田数馬金談之義相頼、外ニ入湯。字之助下寺町へ使ニ遣し、夕方帰宿。則鳥居氏御子息御親類方ニ御止宿。尤拙者、字之助兩人屯所ニ而止宿之事。

一十五日。上々天氣。早朝々拙者用向ニ付、室町松安方へ参り、則ひたゞれ急ニ東京江差遣し候様頼置候而、尚又寺町辺江買物ニ参り、早々屯へ帰宿。夫字之助辻子へ使ニ遣し、早々帰宿。尚又鳥居兩人帰宿。夫々右兩人下辺江御越、拙者昼後天満宮様参詣。夫々所々江立寄、尾張屋万助へ寄、尚又三条丹新へ寄、下駄買物。夕方辻子江寄、其夜止宿之事。

一鳥居河内守夕方兩人屯所へ帰宿。其夜兩人共屯所ニ止宿之事。

一十六日。上々天氣。早朝屯所へ藤野氏入来。則久美浜

県知事上京ニ付種々示談有之ニ付、鳥居氏ノ水口氏并ニ  
辻子江拙者呼ニ夫字之助参リ、夫ノ早々屯江帰宿。則水  
口氏入来之事。

一鳥居河内守、水口備前守、藤野近江守、拙者立会、国  
方之儀種々示談仕、夫ノ水口、藤野兩人久美浜県出張所  
へ御同道ニ而御越被下候折柄、御室本多氏入来。面会之  
上種々御咄之上、早々御引取被成候。則中飯後早々鳥居  
氏兩人北野辺江見物ニ御越、夕方ニ帰宿。其夜兩人共屯  
所ニ止宿之事。

一拙者右藤野氏示談之一件ニ付、則終日屯所へ罷在、所  
々買物。明日帰宅之荷物支度。其夜屯所ニ止宿致候事。  
但し入湯ニ参り候事。

一野尻彦七ノ前川銀談書状飛脚幸助持参。髓ニ入手仕候  
得共、夫々口々仕訳ケ不申候半而ハ那波氏へ掛ケ合難相  
成、依之一応帰村取調之上相頼可申心得ニ而明日帰村之  
積り候事。

一十七日。上々天気。早朝帰村之支度仕候而仕候折柄、  
高室治左衛門入来。尚又外ニ木場長次郎入来。久々面

会。色々御咄し有之。則跡片付両掛ケ支度、宇之介為持  
候而、拙者彼是五ツ半時出立仕、弥々帰村。則道ニ而宇  
之介ニ追付道（道）道いたし候。

一杉坂橋政中飯。則仙蔵外ニ下村水口忠助面会。皆々中  
飯支度相濟し、拙者始仙蔵帰村水口忠助上京相訳レ、道  
々小休止、彼是七ツ半時拙宅へ着、目出度帰宅。家来宇  
之助へ酒飯遣し、則燈灯之張相渡、則張替品、尤屯ニ置  
可申候事。

〈明治二巳年〉

三月廿六日。朝大雨ニ而彼是四ツ時ニ相成、晴之处、昨  
廿五日京都藤野近江守殿ノ右八ヶ村社司任官之儀、兼々  
頼置候ニ付、急ニ上京之儀、鳥居氏、水口氏江書状参  
り、則鳥居氏ノ拙者上京可致様被頼、尤交代之約定ニ而  
承知致、右同家庄五郎、野尻彦七相談之上、午之刻ノ出  
京。西源三郎宅へ寄、家来丹久召連上京仕候事。

一茶吞峠ニ而辻肥後跡ノ追附面会。夫々同道ニ而杉坂橋  
政中飯支度。則船水ニ而夕立雨降、暫時休息。彼是七ツ

半時ニ屯所へ着仕候。則辻肥後新屋敷へ御越相訊連申、拙者家来兩人屯所へ着。則賄方与七一兩日前々屯所へ御越ニ而野上長兵衛殿、河原林清三郎殿入来。皆々面会。河清木場江御引取、野上氏、拙者、丹久其夜屯所ニ止宿致候事。

廿七日。早朝髪月代入湯致居候折柄、藤野氏入来。則書狀之趣御示談有之。尤水口氏昨廿六日上京之由、今朝辻氏面談。則今七ツ時若代氏宅ニ而集会相催しニ而其趣御示談承知仕、約定取極メ、右藤野氏早々御引取之事。一野上氏昼前々下辺江買物ニ御越并ニ西山氏入来。則薩州錢早々返納之儀被願候処、勝手ニ返済可致御内意有之。其趣御示談御座候処追々天氣ニ相成、夫右野上氏同道ニ而御引取被成候事。

一拙者昼飯後早々家来召連、則下辺江罷出、則尾張屋方助方へ参り、則挑物相尋申候処、尤おかね仕立直之分出来罷在候得共、此度新調之分ハ一兩日ニ急度出来候趣、尤金物打替之儀へ出来有之。則印形入之袋是又右同断。則来廿九日中ニ皆々相揃置可申様申候ニ付、早々引取、

寺町六角辺所々見物致、服部屋江立寄、袴仕立直し相尋候処、明廿八日昼迄ニ致置候与申、尚又急入頼置、二条上ル大黒屋へ参り、あつらい之羅砂割羽織出来、則代金相渡シ、右品請取小硯墨買求メ、彼是八ツ時ニ屯所へ帰宿致候事。

一右七ツ時々則約定之若代四郎左衛門殿方へ参上。暫時相待候処、皆々打揃候。則水口氏、横田河内、辻肥後、藤野氏、拙者共此度任官願度、願書之次第一統種々相談致、尤若代氏御認之儀相願、明日県出張所尚又葉室殿へ可罷出約定ニ而御酒一献相催し、種々之示談在之。彼是夜五ツ時ニ相成候処、則辻氏風邪ニ而右方ニ止宿。水口氏、横田氏、家来者人共室町木曾利方江止宿ニ御越、将又拙者、藤野右兩人屯所ニ帰宿。尤藤野私屯へ御引取被成候事。

一則屯所ニ而野上長兵衛、小島平八郎屯所ニ而止宿被致、尚又拙者皆々屯所ニ而止宿致候事。

廿八日。早朝上々天氣。拙者出水通、則并筒屋弥兵衛方へ鉄砲取ニ参り、尤右拙者之鉄砲受取、持帰り、夫々国

元江為持遣し候支度仕、朝飯支度仕候事。

一家来丹久国元江帰村。則鉄砲外ニ少く他之持物持、尤弁当持參帰村事。

一小扁平八郎馬路役所へ中江村役用ニ而弁当持參ニ而御越、尚又野上氏買物旁々下向江御越被成候事。

一拙者朝五ツ時々辻子へ下り候処方治方へ留主番ニ參り居候故、別段用向有之候ニ付、拙者方治方へ參り面談。

尚又辻子へ帰宿。中飯支度後早々寺町服部屋へ袴仕立直し取參り、則代金相渡、右品受取、二条寺町角雨合羽買求、早々屯所へ歸り、暫時休息。昨日約定之通り若代氏へ參上。

一七ツ時々若代氏へ參り、水口備前守、横田河内出席。拙者出席。右三人相談之上願書御認被下調印仕、尤右藤野氏先刻出席調印有之。夫々則久美浜県出張所江届ケ、尚御添書共受取旁々參上。尤右三人罷出、右役所伊藤氏面会。右添書貰ひ葉室殿江右三人罷出、取次を以西川左京殿面会。則此度拜任願度義申立、願書差出し候。何分先任官之儀御執奏之辺を以此度相願候間、出願次第大納

言樣へ此段御伺被下、宜敷相願可申次第言上致候処、右西川氏早々右願書持參。御高覽之上承知之趣明日弁事役所へ差出しニ相成候ハ、其趣当殿御申越被下候様被仰、其趣畏り、右三人万端相頼、早々引取、尤門前ニ而水口氏寺町へ御越ニ付、尤明日帰村之由被仰付相分連申候事。

一拙者横田兩人若代氏へ歸り、則右扣書之儀みの紙ニ帳面ニ而弁事役所江可差出候義、右伊藤氏御心添之次第相頼、尤此扣書若代氏へ御認相願、外ニ大掌会(會)之下書者冊相預ケ置、明日弁事役所へ本願差出し可申手筈ニ而早々引取、尚又久美浜県出張所へ右藤野氏相尋旁々伺申候処、御引取之跡ニ而右兩人引取、押小路油小路ニ而横田、与相分連、拙者辻子へ參り、其夜止宿致候事。

但し油小路おかつ方へ參り、赤小袖相尋申候処、明早朝取寄見せ呉候様相頼置、則堀川鳥安ニ而夕飯酒肴相催候事。

廿九日。早朝天氣。則おかつ頼置候小袖之儀昼迄相待呉候様申參り相待居候候得共、明日ニ相成候半而ハ取寄之



儀難相成、段々其趣承知、昼飯之支度彼是八ツ時ニ相成、夫々若代氏へ参り候事。

一右之刻限ニ拙者、若代氏へ参上仕候処、則横田出席。

今朝藤野氏掛り違ニ付、是悲拙者ニ可参様、夫々横田、拙者兩人弁事役所へ本願持参。音松借用ニ而右兩人参り候処、取次江名札を以相願候処、今日ハ御役所御引ケニ相成候ニ付、明日辰刻ハ午之刻迄ニ可罷出様被申候ニ付、尚又相頼置、尚明日出願可致段御取次衆へ願置、早々引取申候事。

一右之義ニ付若代氏へ右兩人帰り、四郎左衛門御他行ニ付、其趣御家内へ右願書預ケ置、拙者屯所へ帰宿。横田氏下辺へ御越、則明日早朝ニ若代氏へ右兩人共可罷出約定ニ而相分連申候事。

一国元林町仙蔵上京。河庄家買物ニ出京之由、尤野上氏面会致度故相尋申候而、尚明日早朝入来之由ニ而平五宿へ帰り、野上氏夕方帰宿。其夜屯所ニ而兩人共止宿致候事。

晦日。雨天。早朝拙者入湯致、夫々昨日約定之弁事役所

へ罷出可申筈ニ而其支度仕候折柄、仙蔵、野上氏へ面談下り、則兩人河庄家買物ニ御越被成、則野上氏屯人夕方ニ屯所へ帰宿之事。

一拙者早朝右之役所へ出願ニ若代氏江罷出候処、則藤野氏、横田氏出席。尚又拙者出席。種々示談之上、藤野氏相願、右兩人家来召連弁事役所へ出願ニ御越被下、拙者暫時相待候得共御帰り無之。夫々御所江尋旁々参上致候得共、掛ケ違ニ相成、拙者下辺江参り、辻子へ参、則中飯酒肴支度。彼是八ツ時ニ尚又若代四郎左門殿へ立寄候処、右兩人役所其儘ニ而銘々御引取、夫々屯所へ帰宿。明日帰村之支度ニ取掛り候事。

一暮六ツ半時藤野氏入来。則今日右弁事役所之次第右兩人長々相待申居候処、則取次池田(イコ)取次ニ而願書預りニ相成、尚又追而御沙汰有之候趣、則宿所書別紙相認置差出し置、右兩人御下り由御咄し、尚又人数之処、則本県江六人之断書御示談有之。右之儀段々相談致、則鳥居氏拙者之印形御預ケ申、右願書藤野氏へ願置、藤野氏新屋敷江御引取、則拙者馬乗灯燈藤野氏へ貸申候事。

但し其夜野上氏拙者屯所ニ止宿之事。

四月朔日。早朝拙者入湯。婦村之支度致居候折柄、中江村宇之助用向無之哉尋ニ参り呉、則風呂敷包卷ツ為持、

婦村相頼申候。夫ハ拙者婦村之支度。且屯所入用之弘

方、当座之賄方与七ハ相渡申候。夫ハ弘金相渡、則野上

氏買物出来ニ相成、彼是五ツ半時ハ出立。尚又安居院古

手屋ハ寄、野上氏一処ハ買受取、尤金札拾兩相渡、婦村

致候事。

一杉坂橋政ニ而中飯。弁当持参支度、則鳴之堂ニ而休足。

彼是八ツ時ニ帰宅。夫ハ髪月代同家庄五郎殿ハ参上仕、

万端挨拶致、夕方帰宅之事。

但し、野上氏ハ拙者日笠之紐房卷筋、則小児守之紐ニ

進上し致候事。

一四月十日。野上長兵衛殿宅ニ而本家参会相催し、則当

村社司一統昨年早春来勤王ニ付京都出張、尤当郷中一統

与申なから当村多人数之儀故多分之入費ニ付、本家相談

之上舍を以銘々筋目有之候者、此度出金之者村帯刀差免

し、猶国方之儀者追而披露可致候。依而含状左之通相渡

可申者也。

証

王政御一新ニ付為勤王 鎮撫使江当庄社司之銘々供奉、

或ハ屯所江出張、其外昨早春来多分之失費之金高不容

易、依之其許事勤王報国之微志と称し、金札六拾兩社司

仲ケ間江調達被致候条、更ニ実効相顕レ全ク出張功勞同

前尽力之程一統致讚美候、則失費取賄金与相定候、右ニ

付賞し、此功勞向後村帯刀之儀ハ可為心任候、元来其許

家名家同列之從來ニ候得者往々傍例を見合、宮座披露相

濟候迄之処、銘々共合を以始斯候、仍而如件

河原林大和守

明治二巳年三月 河原林庄五郎

野上 長兵衛

野尻 彦七郎

中久保文三郎

林 久次郎

田中 政太郎

比果 彦輔

林 庄次郎

野上与兵衛殿

中久保文三郎

林 久次郎

田中 政太郎

比果 彦輔

林 庄次郎

河原林兵助殿

河原林勘三郎殿

証

王政御一新ニ付為勤王 鎮撫使江当庄社司之銘々供奉、  
或ハ屯所江出張、其外昨早春以来多分之失費之金高不容  
易、依之此度其許兩人申合 金札式百式拾式両壹歩社司  
仲ヶ間江調達被致候段、全ク勤王報国之微志相顯一統致  
讚美候、尤以時節返弁之儀ハ勿論ニ候得共、斯実効相  
立候条等閑ニ難棄置評定ニ付、為此賞功向後村帶刀之儀  
可為心任候、元来兩家事 名家同列之從來ニ候得者往々  
傍例を見合、宮座披露相濟候迄之处、銘々共合を以如斯  
候、仍而如件

河原林大和守

明治二己年三月 河原林庄五郎

野上 長兵衛

野尻 彦七郎

一六月九日。早朝大雨降り、尤夕立ニ而彼是四ツ時ニ晴  
天氣相成、夫々上京之支度仕候而夫々出京。則西源三郎  
宅江立寄、尤才吉召連、彼是中江村ニ而午之刻鳴之堂ニ  
而中飯差支、尚又真弓村ハ大夕立致ス。杉坂橋政小休ニ  
而尚又中飯致し、夫々中立荒木場江立寄、彼是暮方ニ辻  
子へ着任、夫々仕舞。則鳥安ニ而夕飯。五ツ半時ニ帰り  
辻子ニ而止宿致候事。

十日。天氣。早朝入湯致、尾張万へ寄、帰り中飯後早々  
谷尾卯兵衛へ参り、色々示談。則刀拵付沓本外ニ婦ち頭  
小尻雜がん沓組預ケ右之<sup>(鼠ク)</sup>所へ相預ケ、夫々所々へ寄、

挑物致、尚又取持帰り、其夜辻子ニ而止宿候事。

十一日。早朝多上々天氣。色々買物致、昼飯後早々上へ参り、則才吉召連屯所へ参り、万端承り、夫々江戸表書状并ニ金札差出し度候ニ付、屯与七同道ニ而伊丹屋江参り、考太郎殿面会。書状差出し都合聞合、夫々山科家江参り、聞合、夫々木具又江立寄、封箱買求メ、尚又松安へ立寄、木場へ寄、藤野氏へ相尋申候処、今日出張所替ニ付明早朝面会之手筈ニ而尚又屯所へ寄、才吉残し置、寺町辺へ拙者参り候事。

一野上長兵衛堀川ニ而面会。相分連右同人屯所ニ而止宿之事。

一竹屋町近江屋吉兵衛方参り、長刀式振代并ニ袋代共代金六兩相渡事。

一新門前通谷尾卯兵衛へ参り、彼是七ツ半時夕立ニ而下駄傘借用ニ而下、辻子へ帰り、拙者文ヶ辻子ニ而止宿事。

但し其夜大雨降り扱々困り入候事。

十二日。早朝天氣。則早朝少々雨降り。昨日約定之通り、藤野氏面会。木場江参り候而相待申候事。

一四ツ時則藤野氏木場へ入来。則面会。久美浜県出張之次第承り、万端御咄し国方之義示談。尤西山氏御同席。

尚又拙者打合之大布施山林売弘之儀御示談申約定致、相分連拙者屯所へ引取中飯致候事。

一野上氏、小島平八郎面会。種々之雜談。夫々銘々私用致事。

一則大布施村庄屋喜次郎殿へ書面相認、野上氏へ明日帰村ニ付相渡相頼申候事。

一七ツ時江戸表へ差出ス書状金札相封し、大宮通御池上ル伝馬所へ屯所与七へ相渡持参。則受取取夕方帰宿。尚又小島平八郎、才吉、千本上立売塩屋へ右塩買ニ御越、是又夕方帰宿事。

一野上長兵衛七ツ半時多上々へ上り、則香新泊り、明日帰村之事。

一拙者用向在之ニ付、夕飯後早々才吉召連、辻子へ帰り、尤才吉尚又屯所へ帰し、則家来考人屯所ニ而止宿之事。

十三日。中天氣。屯所多才吉五ツ半時参り、夫々新門前橋仙へ遣し、尚又寺町綾部屋へ袴取ニ遣し、昼後早々帰

り、夫々相休ミ候。追々大雨降り申候。

一谷尾卯兵衛入来。則拵付刀外ニ差添春本かいけん春本半小柄卷ツ持参。皆々買受、尤金札廿五両本人へ直々相渡し、右之品夫々直し旁々右同人へ渡し、早々引取申候事。

一皆々其夜兩人共辻子ニ而止宿之事。但し其夜大雨降り扱々困り入候事。

十四日。中天氣。早朝々祇園神事之義故終日休足致候処へ、大布施村庄屋喜次郎入来。則南ヶ谷半蛇ヶ坂立木之義種々示談致、彼是四ツ時ニ引取被成候事。

一家来才吉大仏江行ニ付、金札卷両貸参り夕方帰り候事。

十五日。中天氣。早朝々所々買物行、伊勢長へ立寄、中飯支度。夫々竹屋町へ立寄、尚又木場へ寄、七ツ時屯所江帰り、夫々所々暑中見舞持参物支度仕、其夜屯所ニ而止宿。其趣辻子へ才吉差遣し、皆々止宿之事。

但し其夜雨降り、扱々困り入候。則西源三郎上京。伊丹宗ニ而右同人止宿之事。

十六日。雨降り。早朝々暑中見舞之拵并ニ入湯。右見舞之品物求メ申候処、西源三郎面会。尤夫々源三郎帰村。

彼是四ツ時ニ被引取候。夫々暑中に見舞之拵致、夫々買物ニ行、拙者辻子ニ而中飯支度、夫々上り葉室殿暑中見舞黒大豆卷升献上并役所へ同断卷升進上。夫々多氏へ白砂糖代金式朱右同断進上。山科氏へ代金三朱右同所進上。夫々白峰社へ、多將監様へ面会。彼是夕方屯所へ引取、夫々辻子へ下り、其夜拙者辻子ニ而止宿致候事。

十七日。天氣。早朝入湯。彼是五ツ時上上嵯峨小林氏へ万端暑氣尋旁々参上。則中飯厄介。夫々種々示談之上引取。尚又御室本多帶刀暑中見舞旁々立寄、面会致し、彼是七ツ時引取、則屯所へ帰宿。則東京へ遣ス書状相認申、夕飯支度致、夫々辻子江才吉召連、則伝馬用所へ参り候処、夜中之義故尚明早朝ニ可致、依之右辻子其夜兩人共止宿致候事。

一七ツ半時屯所ニ而松屋安兵衛書付莊束卷式持参受取、常衣式領之跡が持参可致約定之事。

十八日。早朝中天氣。拙者献上鮎之義ニ付、葉室殿江参

殿。則西川右京殿へ面会。右献上之義ニ付種々相談致候  
処、雨降出し、則御殿ニ而傘拜借致、早々引取申候。

一河原林熊次郎入来。則軍務官之次第、尚又内藤氏之伝  
言種々御物語り、彼是四ツ半時ニ引取申事。

一西田村西田耕平殿入来。面会之上則弓射之義段々山国  
組加勢之義御頼在之候ニ付、其義承り、則書状之義ニ而

御遣し之義申置、夫々右西田氏彼是昼半時御引取被成候  
事。

一早朝馬伝御用所ニ而東京之書面差出し受取書取、則夫  
喜助早々帰り候事。

一右昼半時々四条北論留理ニ皆々聞ニ行、則柵屋々見  
物。尤夜四ツ時ニ皆々辻子へ帰宿致候事。

一右他行中ニ野尻彦七殿入来。則金借之口々、但小之  
口、前川之口、夫々埒明成盆前ニ飛脚等参り不申様、取  
計可致様亀次郎へ被仰付、早々御引取之事。

十九日。雨降り天氣。拙者内たん色々買物之義相頼、則  
手附金相渡、喜助彼是七ツ時迄相懸り候。尤針差外ニう

ちわ楊枝買求メニ遣し候事。

一家来才吉いせ長橋仙使ニ遣し、是又昼前ニ帰り候事。

一水口集太入来。則軍務官之儀を段々御咄し、尤吉田数  
馬殿ニ御世話ニ相成候義、尚又金子借用之義、水口氏へ

頼具様、是又相頼、且又拙者へ刀耵本借用致度義被頼、  
是又承り置候ニ而右集太早々御引取之事。

一平五宿々野尻彦七殿書状持参、随々受取披見仕候事。  
一大布施村三平入来。則桶割山之雜木立毛頼ニ御越、其

段承り候事。  
一其夜辻子ニ而皆々止宿致候事。

但し其夜大雨降りニ而実ニ困り入候。  
廿日。早朝極雨降りニ而困り入、拙者髪月代入湯致、彼

是昼前ニ相成、河藤借材一件ニ付万屋次右衛門入来。種  
々示談之義承り、尚又今一段引合之義頼置、尚又内たん

ニ行、金又々見せニ参り、一晚いたし、且又喜助買致持  
帰り、荷物取調、則七ツ時々上屯所江上り、屯所ニ而種

々取調用向有之。其夜家来才吉共屯所ニ而止宿致候事。  
廿一日。早朝上々天氣。則与七親類々屯所へ帰り、屯所

家賃并ニ米酒代払方扣相払、彼是五ツ時過ニ相成、下モ

喜助上り参り、則買物色々致、五ツ半時カ出立。皆々  
帰国之事。

一杉坂はし政中飯。道々小休シ鳴之堂休ミ西源三郎宅へ  
立寄、面会。夫カ夕方拙宅へ帰宅着仕候事。

廿二日。中天氣。野上長兵衛宅ニ而社司本家参会、出席  
之事。廿三日。小雨降り。野尻彦七宅月並之伊勢講相勤  
り、拙者出席之事。

巳年八月朔日。上京。拙者丹久伊之助召連京都ニ而買取  
旁々彼是四ツ時ニ相成、夫カ右三人上京。則上々天氣ニ  
而仕合能候事。

一真弓村下モ辻堂ニ而中飯支度。夫カ参り申候処所々ニ  
而休足。彼是夕暮ニ中立売屯所へ立寄、鳥居氏相尋申候  
処、与七計右鳥居氏今朝カ若代氏方ニ而水口氏、藤野氏、  
横田氏集会ニ而帰宿無御座、夫カ下モ辻子へ三人共下  
り、彼是暮半時着。辻子ニ而皆々止宿致候事。

一二日。中天氣。雨降りニ相成、昼迄灸すへいたし、昼  
飯後早々伊之助召連、藤清弘方濟し、尚又諸紙定住文、夫  
カ出張所藤野氏江面会。則右前川五郎左エ門金談一件

示談相頼置、夫カ室町木曾利江参り、水口氏止宿面会。

種々示談致、早々引取、夫カ中立売屯所江参り、鳥居氏  
ニ面会。彼是暮方カ相分、則明昼後者各々若代氏ニ而集  
会之約定ニ而拙者辻子へ引取、右辻子ニ而夕飯止宿之事。

一三日。早朝天氣ニ相成、則伊之助右之たんすカ卒持帰  
り、彼是拙者面会之仁、彼是昼ニ相成、昼飯後早々カ高  
倉宗仙寺へ辻子之宗旨取ニ、則右拙者始龜太郎丹久召連  
買物旁々行。

一四条通ニ而所々買物致、夫カ宗仙寺参り、則宗旨調印  
致被呉、彼是八ツ時ニ相成、夫カ西大谷参詣并ニ清水参  
詣之事。

一七ツ時近江屋伊助方へ立寄、取替之金子返濟之示談。  
尚又延引之義段々相頼候ニ付彼是夕方雨降りニ相成、則  
龜太郎老人先ニ用向旁々引取、拙者丹久夕飯、酒肴頂  
戴。則暮早々引取申候事。

一繩手橋仙方へ立寄、尚又新門前出店仕事場へ立寄、則  
過日頼置候大小共取持帰り可申約定之処、延引之由、尚  
又段々相頼ニ付、来ル五日迄相待早々帰り候。彼是五ツ

半時ニ相成、夫お丹久召連辻子つじこへ帰り、其夜同宿いたし候事。

一四日。早朝天氣ニ相成、丹久帰国之由相頼候ニ付、則間ニ合紙為持遣し、早朝帰村いたし候事。

一拙者四ツ時後のち木場の向ケ参り候処、中立売ニ而水口氏ニ出合、則木場へ立寄、夫お木場借財一件示談致し、夫お若代氏わがへ同人同道ニ而参上之事。

一若代氏へ参り、則鳥居、横田皆も面会。拙者、水口、夫お藤野入来。皆も面談。則社司統目之義種よしかたと相談之上神社改帳并ニ右統目之願尚相頼、夫お中飯酒肴堀川京屋へ申付ケ、則右回家ニ而皆も一会致居候処、御室本多帯刀入来。皆も挨拶いたし万端右之一件、鳥居、横田兩人へ相頼置候のち之折柄、木場の水口、拙者兩人呼ニ参り、夫お皆もへ席相断引取申候事。

一木場へ参り、則水口氏、拙者、彦市、右三人同道ニ而薩州御花畑屋敷へ参り、則池田友吉殿ニ面談。木場借財之一件申上候処、彼是欠違、尤惣代銘なづなニ者別段用向無之、不都合之次第ニ而彼是夕方右三人共帰り、拙者水口

夕方ニ相成、室町木曾利ニ而止宿致、夫お藤野氏呼ニ遣し候事。

一藤野氏四ツ時ニ入来。夫お山国事件種も右三人示談。尤奥山之義并ニ社司之一件種も相談。彼是夜九ツ時藤野氏御引取被成、夫お兩人止宿之事。

一五日。天氣。早朝の兩人種も示談致候処へ、喜助下辻子しんすけ参り、則室町松安へ金札拾兩為持遣し、尤請取書取置、則喜助引取申候処へ、万蔵入来。則梅園殿之義段よしかたと相談。尤水口加入之義被申候故、其辺ニ而駕のり与示談ニ及、其上取極ま可申約定致候。彼是与昼ニ相成、右昼飯支度、早も兩人私用室町一条之辻ニ而相分連申候事。一拙者夫お寺町下毛色けしと買物致、夕方辻子へ帰り、其夜辻子止宿之事。

一六日。早朝天氣。則龜太郎、拙者道伴ニ而大宮長谷川江兩人共見テ貰ヒニ参り、彼是昼前ニ相成、夫お東洞院買物ニ参り、昼前ニ辻子へ帰り候事。

一万蔵入来。則梅園殿一件急ニ御前面会之義被申候得共、何分右八日奥山一件拾ケ村参会相違有之候ニ付、無



抛一応帰国致度旨申、尚又取極次第上京之約定ニ而相分  
申候事。

一夫ハハツ時後ハ雨降りニ相成、色々買物、喜助相頼、  
終日辻子ニ罷在候而、其夜辻子ニ而止宿之事。

一七日。天氣。早朝ハ支度。喜助召連帰村。則掘川加賀  
屋弘方買物致、杉坂中飯支度、所々休日。彼是夕方拙宅  
へ帰宅致候事。

一八日。中天氣。高田寺広河原村一件参会、出席致ス事。

一八月廿七日上京。則天氣。早朝ハ支度。則辰之坂ニ而  
河原林清三郎ニ出合申、夫ハ同道上京。則真弓村辻堂ニ  
而中飯支度、所々休息。彼是暮方京へ着。寺之内平野屋  
五兵衛ニ而河庄殿見舞旁々河宗、仙蔵面会。其夜平五ニ  
而止宿之事。

一河原林庄五郎面会见舞之事。

但其夜雨降り之事。

一廿八日。彼是五ツ半時ニ天氣ニ相成、則河庄殿面会。

夫ハ万蔵へ方立寄、掛違、木場へ立寄、右木場ニ而面

会。夫ハ県出張所藤野氏相尋申候処、梅園殿へ出勤ニ而  
掛違、夫ハ若代氏立寄、奥山之義外ニ続目万端相頼置、  
辻子へ参り、昼飯後四条芝居若者四人参り、則売弘之義  
申参り、其義承り置、其日終日休息仕、則髪月代場其夜  
止宿之事。

一廿九日。早朝飛脚兵七上下拙宅より持参、受取申候折  
柄、雨降りニ相成候而困り入、則入湯致、彼是昼迄休息  
仕、夫ハ上辺藤野氏、水口氏尋旁々若代氏へ参り候処、  
右水口氏上京相尋申候得共、未タ上京無之、夫ハ県出張  
所江出、藤野氏面会致

一梅園殿雜掌役之義、右藤野氏、森脇氏相勤被下哉相尋  
申候処、何分右之次第、役所明置ニ而者不都合之旨御前  
ハ被仰、依之森脇氏万蔵段々相頼候ニ付、不計倅捨弟之  
名前ニ而出勤罷在候得共、何分藤野氏両方者難相勤、尤  
名前出し兼候間、尚水口氏上京之上薦与相談致、取極メ  
可申候与約定致、拙者引取申候事。

一拙者、右引取懸ケ室町木曾利宿へ、則水口氏上京ニ相  
成候哉相尋申候処、是又上京無之。依而早々引取申候。

一中立売木場へ立寄、右奥山帳彦野氏を取に参り候へ、御渡し可申様申置、彦市始清三郎、佐伯市兵衛外に万蔵面会。種々示談有之。彼是夕方辻子へ帰り止宿之事。

一九月朔日。則夜中大雨降り、扱々困り入候折柄、水口康太郎殿入来。則藤野氏江水口氏之書面、尚又藤野氏の水口氏へ返書持参。則山国社司郷士之由緒取調之義本県より来ル三日迄に出張所へ申出可申様申参り、夫に付山国参会之義、尤大切之義、右急返書に付別飛脚に而早々御遣し被下、猶外に色々相咄し、右水口子息御引取被成候。引續り山国西右内、おかねどの子供連に而三人計入来。面会致候而出府之人に御咄し有之。昼飯後早々御引取被成候事。

一午之刻々天氣に相成、夫々拙者八坂之神社参詣。橋仙へ立寄、金札五両相渡し置、夫々近江屋伊助方へ立寄、夫々所々買物致、彼是夕方帰り候処へ

一国元々河原林彦助社司之一件に付使者に上京。拙者三日四ツ時迄馬路出張所へ可参様、河惠、野彦を参り、其義承り候得共、御断之義示談致居、右彦助辻子に而止宿

罷在候事。

一九月二日。上々天氣。早朝支度。右彦助同道に而久美浜県出張所江罷出、右馬路役所へ罷出候義、国元を申参り候に付、藤野氏江面会。右之晰し段々示談致候処、何分此度者篤々勘考相談之上に而可致分宜敷様被申、依而彦助右之次第申、早々引取、則野尻氏を藤野氏へ預ケ有之書類、則若代氏に相預ケ有之間、尚又拙者道伴に而若代氏に面会。右之書類受取直に彦助へ渡し、早々右同人帰村之事。

一拙者、若代種々示談致、彼是四ツ時引取申候。  
一木場へ立寄、西山氏面会。夫々竹屋江寄、小竹拾壹本買、寺之内平五へ参り、河原林庄五郎見舞旁々参り候処、追々宜敷様子、則中飯支度致、夫々山科家へ相尋種々御挨拶申入、早々引取、夫々寺町辺江廻り買物致、八ツ半時に辻子へ帰宿之事。

一夕方周山村郷宿を河筋六組之参会有之候に付、拙者始佐伯市兵衛、西山右三人使周山久吉書状持参。披見致、明日帰村之義相断申入、其夜辻子に而止宿之事。

一三日。上々天気。早朝屯所与七入来。則西家内并外方

書面、江戸西右内方へ差遣し度候ニ付、尋旁々入来。猶又周山村久吉入来。弥拙者帰村無之哉、押而帰村之義申

ニ参り候得共、則江戸表へ書状相認差出し申度ニ付、無抛用向在之。右之次第相断、右久吉帰村之事。

一伝馬所江書状差出し、則与七私用相頼、依而彼は八ツ時引取事。

一西村津弥殿入来。種々御咄し有之。江戸表へ帰国之義申越、若哉勝手ニ寄、右同人罷下り可申様、是又急度申遣し候様段々之相頼、其旨相認差出し申候。将又小源太

正親、河内山政六殿、山科君江書面相認、彼是終日相掛外ニ国元へ買物之品々相求メ申候へ者、彼是夕方ニ相成、

則喜助、平伍へ上り候。拙者辻子ニ而止宿致候事。

一四日。上々天気。早朝入湯。夫々四条辺買物ニ亀太郎召連、彼是昼迄罷出候。昼飯支度。昼後早々大將軍神事

参詣。天満宮参詣。夫々所々江立寄、尚又木場へ寄、弁当持帰り、彼是夕方辻子へ帰り、其夜辻子止宿之事。

一五日。上々天気。早朝芝居、若者共入来。書付持参。

屯所与七入来。士官次右衛門入来。皆々帰り、夫々拙者髪月代入湯致、夫々終日休足。所々私方致候而其夜止宿之事。

一六日。上々天気。早朝上ミ江上り、県出張所江罷出、則藤野氏江面会。右梅園殿之義種々外ニ杉浦家之義、是

又示談致シ、彼是昼ニ相成、右早々帰り、尤木場へ立寄、夫々屯所へ立寄候処、則留主番与七他行中ニ而一寸

書残シ置、早々辻子へ帰宿。則中飯支度いたし、夫々高辻堀川東入杉浦家出張所江罷出、則小林氏、桑橋氏、小

島在宿ニ而面会。尤萩原氏他行ニテ面会不致候得共、右三人之衆中江種々御咄し有之。彼是七ツ時ニ相成、夫々

寺町へ廻り、所々買物。夕方帰宿。辻子ニテ其夜止宿。則明帰国之仕度致ス事。

一七日。早朝雨降り困り入、彼是五ツ時ニ出立。堂之庭ニテ小休。真弓村辻堂ニテ中飯支度。夫々帰村之者ニ追

付、茶吞ニ而喜助上京ニ出合、鳴之堂休日。わらじ着足買、夫々夕方ニ拙宅へ帰宅致ス。尤四ツ時々晴天ニ相成

存外ニ仕合之事。

一八日。拙宅ソウジ且又私用。猶又明九日神祭ニ付頭本  
岡本内記宅へ出張。神事之拵致ス。夫々国元之用向引統  
可致事。

一九月廿日。上々天気。御茅輪御用向ニ而東京江出張罷  
在候。名代小源太下役西右内帰京之趣申越、外ニ山科家  
も帰京之趣、依之拙者喜助召連上京。尤西氏へ立寄、夫  
々上京。則真弓下堂ニ而中飯。所々休足。彼是土手ニ而  
日暮、拙者山科家江立寄、種々相尋申候処、宿割今日参  
り来ル。廿四日頃京着之様子ニ而拙者茂出迎ニ罷出候様  
申、灯燈拝借仕、早々下モへ下り、彼是夜五ツ時ニ辻子  
へ着仕、夫々足仕舞休足之処、喜助着。夫々夕飯支度。  
入湯ニ行、止宿之事。

一廿一日。上々天気。早朝拙者髪月代。夫々下辺ニ買物  
ニ行、尤寺町辺所々廻り昼後ニ帰宿。則中飯支度。暫時  
休足罷在候折柄、伊勢長之にお三津入来。面会。夫々上  
若代氏へ水口氏上京ニ付梅園家之義、尚又国方社司之義  
相談旁々参上之事。

一若代四郎左エ門殿方へ参り、則水口氏御越有之候哉相

尋申候処、且今入来之趣、夫々座敷へ通り面会。猶又若  
代氏へ面会。種々国方之一件示談。則御酒肴頂戴、彼是  
夕方、尤藤野氏入来ニ相成趣兩人相待、則夕飯頂戴五ツ  
時灯燈拝借。水口氏宿拙者辻子へ帰宿ニ而其夜辻子止宿  
之事。

一廿二日。上々天気。早朝龜太郎大坂へ帰京。拙者入  
湯。夫々帳合日記相認メ申候。色々用向有之。彼是昼ニ  
相成、則中飯支度。夫々灯燈返濟旁々若代氏へ参上。水  
口氏面会。種々示談致候処、七ツ時ニ藤野氏御越、猶又  
色々相談。夕方ニ相成、則御酒肴頂戴。則梅園殿之義、  
右三人相談致候処、水口氏ハ断及候ニ付、弥藤野氏、拙  
者兩人ニ而相勤可申約定、彼是夕飯頂戴。四ツ半時ニ相  
成、夫々拙者引取帰宿。辻子止宿之事。

一廿三日。上々天気。早朝山科家へ灯燈御返濟迎之義相  
談旁々上ニ上り候処、則中江村宇之介ニ油小路ニ而出  
合。則昨廿二日上京。尤西村つやどの送り、右屯所へそ  
うじ為致可申様申付、中立売油辻ニ而相分連申候事。

一久美浜県出張所罷出、藤野氏面会。梅殿之一件相談

致、夫々何分拙者共来月ニ相成可申候ハ、面出シ難相成候趣篤与申置、夫々山科家へ参り、昨日ヨリ御迎之義承り、尚又今日も御迎之義ニ付其段承知、早々引取、伊丹宗へ立寄、お常との面談致シ早々引取申候。

一今出川丹後屋吉兵衛江立寄、七月前弘致相渡し、屯所へ立寄、宇之介そうじ之義申付、早々下者引取、辻子ニ而中飯支度致候而迎ニ行候事。

一八ツ半時ふけ揚ケ迄亀太郎召連迎ヒニ参り弓屋ニ而暫時相待居候所へ、山科氏丈ケ籠駕ニ而御帰、御挨拶申上、早速西氏小源太帰京之儀相尋申候処、出立之節、西勢太不快ニ付両三日出立延日ニ相成、依而来ル廿五六日頃ニ相成様被仰、依之早々引取、夫々所々廻り夕方ニ帰宿。辻子ニ而止宿之事。

一岡本万蔵入来。則梅園殿之義段々御咄し有之候処、屯所与七入来。右兩人共早々御引取之事。

一廿四日。上々天気。早朝入湯。日記帳并ニ出入帳外ニ国元之書状相認申候処、則山科家進上物肴くじ五枚買申、彼是昼半時喜助召連上り途中与七出合、右書状相

渡、国元へ差遣し候テ山科家江参上。右進上暫時相尋待居申候処、右出雲様近辺江挨拶ニ御廻りニ付帰宅無之。猶又可詞様拙者引取、木揚江立寄、夫々たばこ買求メ夕方帰宿之事。

一水口氏入来。則昼前御酒中飯出シ種々示談。且又鎌倉上黒田林蔵山之御頼有之。右猶又藤野氏へ相談之上工夫買分ニ可仕様申置候。彼是八ツ半時ニ御引取之事。

一廿五日。早朝雨降ニ相成、則東京小源太、西氏帰京ニ付、迎之儀申居候処

一材木屋万蔵入来。則梅園殿事件ニ付藤野氏へ面談之上、森脇御暇願具候様相頼候ニ付、此人埒明ニ相成間、拙者江是悲相頼申候間、其段承り置候事。

一屯所与七入来。右迎ニ行、則亀太良、与七、喜助、右三人四ツ半時参り申候。則三条白川ニテ出合、夫々帰り候事。

一松屋弥助入来。過日南芝居売払之儀、且又地面之一件種々相談有之。何分半取金千貳百兩ニ相成候ハ、売可申約定致、尤地面之儀ハ後日篤与御相談可致与申置候

与被申、何分半取千式百兩ニ精々売可申手段頼置早々江引取候事。

一東京ノ小源太、西右内、勢太婦京有之ニ付、屯所へ上り候。則井上氏、神谷氏入来。則タコアジノ肴ニ而御酒罷出シ有之。右婦京者各士へ挨拶。且又右式人へ挨拶。

則御酒一献各士一統吞酔、夕方西氏、神谷宅へ御越、夕飯仕、拙者、西源三郎、是又国元ノ上京。拙者ハ喜助召連、辻子へ帰宿之事。

一廿六日。天氣ニ相成、早朝寺谷平五郎入来。則我等始藤野氏、水口氏預り銀之儀相場違段々御頼有之候得共、是迄之引合振之事件申入候得者何分今一応勘考之上宜敷相頼可申様被申、早々御引取之事。

一拙者入湯。猶又上へ行、屯所江罷出、則彼是四ツ時ニ相成、井ノ上入来。昼ニ相成候故中飯。夫ノ早々押小路大外記松室氏廻礼ニ罷出、夫々相濟シ山科家右東京ノ之荷物取旁々拙者始小源太、西右内參上。山科氏江挨拶。

右荷物取調、且又鈴木保荷物早速為持遣シ、右西氏始荷物神谷宗八へ持帰、小源太、鈴木氏荷物持小源太婦り候

跡ニ而山科氏、拙者種々相談致、且足洗之席山鼻ト取極メ七ツ半時ニ拙者引取申候事。

一拙者右引取掛ケ果出張所へ立寄、藤野氏江面会。山季山之一件、水口氏頼之義示談。且又梅殿之儀段々相談致、彼是五ツ時ニ相成、灯燈借用、屯所へ帰り候事。

一屯所ニテ夕飯支度。西氏、井上氏へ御越、右荷物送り儘帰宿無之、拙者、卯之助へ書面相認メ国元へ送り候様頼置、喜助召連辻子へ帰宿事。

廿七日。上々天氣。早朝小弥太家来召連、土産物持參。辻子へ參り、夫ヨリ伊勢長并ニ城殿屋參ル。拙者喜助召連、屯所へ上ル。山形屋ニ而足袋沓足買、屯江參ル。未タ皆々他出ニ付木場江行、猶又果出張所へ灯燈返却。夫ヨリ木曾利宿へ水口氏ニ面談ニ參ル事。

一右水口氏面会。段々種々示談之儀、則鎌倉年季山之儀篤々相談致、彼是昼ニ相成、早々屯へ引取事。

一拙者屯所ニテ中飯支度。八ツ時両氏帰宿。面談。種々宿所之事件、且山科家之御咄シ色々相談。彼是夕方夕飯支度致候処へ伊丹屋老人并西娘お留入来。西氏明日用向

有之。則多氏転宅之趣依之明日山鼻行之儀及断ニ遣し可申、猶明後日ニ可致約定ニ而拙者喜助辻子へ帰宿之事。

一廿八日。上々天氣。髮月代。早朝国元仙蔵入来。則

先達而相頼之金札之儀、猶又相頼、夫が相撲見ニ四人同道。則拙者、龜太、仙蔵、喜助四ツ時ヨリ参ル。右入用

賄方金一両三分惣入用高。夕方帰宿致候事。

一夕方ヨリ仙蔵上ミエ帰宿之事。

一拙者入湯致、其夜辻子止宿事。

一城先生ヨリ書状至来。則□本御登ニ付早々染ニ遣し候事。

一廿九日。上々天氣。早朝上ミヨリ仙蔵入来。則今日帰国仕度故、右頼金今日借用致旨、依而書面相認、又金札五拾兩相渡シ都合金百兩貸之処与七入来。則国元ヨリ書面持参落手。猶又為吉昨夜屯所へ着之趣、干牛丸金貳朱使与七相渡シ、右兩人早々引取ル。

一万屋次右エ門入来。則金談。且又宗助入来。種々御咄シ、則鉄鉋之金談也。猶又御頼有之。右兩人共相頼早々引取ル。

一岡本万蔵入来。則梅殿一件藤野氏ヨリ伝言金相頼候ニ付、右之一件御相談。猶又勸考藤野氏面会之上可申様、拙者屯所へ用向。右万蔵同道ニテ上ミエ上り、中立壳ニテ相分レ申候事。

一拙者屯所へ参り、則為吉上嵯峨小林氏へ土産持参遣シ、多氏へ喜助遣シ、彼是昼ニ相成、中飯支度。則西氏と種々示談。夫ヨリ約定之通山科氏へ向ケ、拙者、西氏、小弥太三人喜助召連、山科へ参上。暫時休足。夫ヨリ山科從四位始各士一統四人家来右堺屋江着。夫が酒肴相催シ、種々相咄シ、彼是夕方ニ相成、則右弘金貳兩尅分入用。拙者扣右夕方ヨリ同道ニテ帰ル。山科氏へ立ヨリ茶一呑、夫ヨリ引取、猶又上立売之神谷宅へ寄、則西氏右方ニ宿ス。拙者、小弥太屯所へ帰宿。其夜皆々止宿之事。西氏迎ニ宇吉上京、屯宿ス。

但シ其日八ツ時西山氏、河原林清三ヨリ右河小、西右兩人へ着色々至来。則屯所ニテ焼、其夜八ツ時ニ止宿之事。

一晦日。上々天氣。早朝国元へ為吉ヲ仕立帰国ス。夫ヨ

リ入湯。藤野氏ヨリ書状材亀持參。猶又県ヨリ同人使入来。後刻面会之返事。然ル処井上氏入来。西氏色々雑談。右兩人道中之勘定致ス。拙者木場方へ行、藤野氏呼ニ遣シ、右梅殿之一件規定致、夫ヨリ若代氏地板二枚也進上。右藤野氏入用之金談相頼ニ行并ニ外由緒書之儀相頼、明日八ツ時ニ返事承リニ可參約定ニ而早々屯所へ帰宿。則屯所ニ而中飯致シ、夫ヨリ色々相談。家賃金八兩相渡シ、種々私方示談。則宇吉留逼、彼是夜五ツ時ニ拙者、喜助兩人下モ辻子へ帰宿。其夜辻子ニテ止宿致ス事。

但し夜雨少々降ル。乍併夕立之気味。

一十月朔日。上々天気。早朝河清入来。色々咄シ拙者入湯。右河清引取ル。色々相談。夫ヨリ入湯。彼是中飯支度。則昨日頼置候金札之義ニ付、若代氏返事聞ニ參り候処、当分六ヶ敷、依而断ニ御座候。夫ヨリ<sup>(張文)</sup>泉出所藤野氏江右之返事ニ相尋申候得者前川氏へ山国組金談之引合ニ御越ニテ、夫ヨリ烏丸山科之家内見ニ行、夕方屯所へ立寄候処、藤野氏入来。則前川金談之示談承り、彼是休足致候処喜助迎ニ參り、早々辻子へ帰宿之事。

一二日。上々天気。早朝髪月代入湯。夫ヨリ萩原旅宿へ尋ニ參り面会。種々相咄シ、御酒頂戴。夫ヨリ四条辺へ廻り白金巾、若代氏頼之分買求、猶又寺町辺へ行。服部屋へ立寄、若代氏へ右之品持參ス。代金受取則宅ニテ一本多氏ニ面会。猶又水口氏面会ニテ種々御咄し、七ツ時ニ屯所へ帰宿。未タ西帰宿無之。右頼之金札貸渡シ居候処へ、本多氏屯へ入来。種々御咄シ、依而彼是暮早々御引取、拙者早々辻子へ帰宿。則明日帰国之まんぢう買求メ申候故辻子止宿之事。

一三日。中上天気。早朝帰国之支度、則喜助召連、右まんぢう拙者之文庫為持屯所へ上ル。拙者、亀太郎召連、早々屯所江上り、右小弥太、西氏、勢太帰国之用意。拙者、小弥太、亀太召連、伏原殿御内雜掌鈴木保宅エ金返弁、猶又亀太之義頼旁々參上。則仲町夷川上ル所迄参り候処、昨日ヨリ本殿へ御出勤、未タ御下り無之趣、依而御家内へ相頼置、早々引取。夫ヨリ帰国之処へ河清入来。彼是午之刻種々御咄シ、則トケイ譲り渡シ、尤代金拾八両式分約定。夫ヨリ拙者、小弥太、神谷氏へ廻り、



西親子同道帰国致ス。杉坂橋政中飯支度致ス処、与七追附、夫ヨリ西河内村日暮灯燈附鳴之堂小休。彼是五ツ半時ニ相成、夫ヨリ西氏宅へ立寄、御酒頂戴。夫ヨリ四ツ時後ニ帰宅。尤喜助召連、皆々江挨拶。酒肴夕飯相濟止宿之事。

一十月十七日。上京之支度致候処、寒風雨。尤雪降りニ相成、彼是四ツ半時ニ相成、其日相止メ申、翌日致ス事。一十八日。早朝支度。則小弥太召連上京。西右内宅江立寄候処、土産之肴無之。依而明日持参上京致候様、夫々右兩人上京。杉坂橋政中飯致、上京之事。

一久美浜県出張所拙者立寄、則夕方藤野氏面会。種々梅殿之一件々々示談致候処、万蔵入来。拙者早々引取、小弥太先着。兩人共辻子江着。其夜兩人止宿之事。

一十九日。上々天気。早朝拙者髪月代入湯。則兵七荷物持参。尤鉄屋金談相断、依而其次第申来候。中飯後早々東谷尾仙吉エ刀出来候ニ付拙者参り、尤道ニテ表具利エ立寄り小屏風早々取掛り呉候様頼置、早々右谷尾へ参ル。則荒身刀一本買受ケ、尤代金一兩三分之処金貳兩相

渡、壹分口銭ニ都合相渡ス。則夕方帰宿。則辻子ニテ兩人共止宿之事。

一二十日。上々天気。早朝西勢太上ヨリ入来。則昨夜西右内上京之由。将又着持参。依之其段申来り候。拙者始捨弟早々支度、上へ同伴。則上立売伊丹屋方へ参上。猶又外席へ参り、則井上氏、西氏、神谷嘉二郎右之衆中酒肴飯催シニ付暫時相待、夫ヨリ我等始三人井上氏嘉二郎相分レ山科家江参上之事。

一山科從四位参上。則大小鯛二枚方棒二本進上。面会挨拶。種々相頼引取ル。

一伏原殿役所鈴木保江面会致、万事東京之御礼并書状差出シ度旨相頼、猶廿二日午之刻道ニ出シ相頼申、猶後日面上可申約定ニテ引取申候事。

但し、拙者寺町ニ而右内、小弥太、勢太相別、右方へクジ一本進上、鈴木宅へ三人行事。

一拙者若代氏へ参上。過日頼置候由緒書預り種々相咄シ引取ル。夫々県出張所へ行。藤野氏へ面会。梅殿一件荒々示談。彼是夕方帰宿。夕飯支度、入湯シ、右兩人共辻

子止宿事。

但し万屋治右エ門入来。種々御咄し有之事。

一廿二日。上々天氣。早朝谷尾卯兵衛刀持參ス。引続西勢太入来。西右内伝言。河内山へ明日出張之由申来り、則中飯支度致シ、彼是八ツ半時々拙者龜太東寺參詣。夕方帰宿。尤其夜夕飯支度。入湯。東京正親へ遣ス書面認メ止宿致ス事。

一廿二日。上々天氣。早朝拙者小札打替ニ加賀甚江行。少々打替、又中立売屯所江行。猶又少々打替入用之品持帰ル。朝飯支度致ス。

一早朝拙者、小弥太、龜太召連レ、鈴木氏宅へ行。未タ御殿ヨリ下り無之。夫ヨリ本殿へ右三人共參上。則正親行之書相渡シ、夫ヨリ所々之家見廻り、丸太町川東家見ニ行、中飯支度。夫ヨリ鈴木氏へ行、面会。右山国由緒書預ケ置、猶又外ニ芝居一件將又官人株之儀相頼、彼是七ツ時ニ引取り、夫ヨリ寺町ニ而買物致シ、夕方辻子へ帰宿之事。

一夕方西右内入来。夕飯支度致シテ上江行。鍵屋喜助山

国へ帰り立寄、是又下モへ引取ル。拙者入湯シテ皆々止宿致ス事。

一廿三日。上々天氣。早朝ヨリ彼是等午之刻迄色々致シ、中飯後早々拙者上辺へ行。

一若代四良左エ門殿方へ參上。則面会。過日頼置候規矩書相渡清書相頼、早々引取事一。県出張所藤野面会。則梅殿役所之儀弥出勤約定御目見之日限、来ル廿六日定、夫迄ニ藤野氏一応御殿江參殿可被致、尤拙者之義篤等示談可致様申被居、依而早々帰宿。則木場江立寄、西山氏他出。夫ヨリ伊丹宗江西氏相尋、是又他出中、猶又井上氏相尋申候。井上氏へ面会、早々引取、夫ヨリ山科家江參上。家之義頼旁々是又他出中ニテ早々引取、夫ヨリ寺之内平五江立寄、国元行之書状頼置早々下り、丹吉江行傘相尋、夫ヨリ旅宿之家見分ニ町々江見廻り、尤所々買物ニ行、彼是夕方辻子へ帰宿ス。

一辻子へ水口氏入来。大工喜助入来。引続小弥太帰宿。猶又西山氏入来。下モ喜助入来。且又万治入来。種々皆々御咄し有之。則西山伊賀川之義仕法書持參。依而其辺

筋へ相頼可申様、其儀承り、近々其筋へ示談可申様申、皆々御引取ニテ夕飯支度。拙者入湯皆々止宿之事。

一廿四日。上々天気。早朝小弥太縁談聞合旁々亀太郎召連茨木村へ兩人行。但シ小入用金一兩相渡シ、尤弁当持参ニテ行。拙者髪月代致シ帰宿。喜助入来。西右内入来。中飯支度。八ツ半時ヨリ西氏上ミエ帰ル。且又谷尾卯兵衛入来。則古刀鞘小道具一式代金二兩二分二朱ニ相成候ハ、引請可申約定。猶又銀金具代金二兩二分袋方三ツ具買請約定、是又早く帰ル。夫ヨリ拙者休足帳合ヲ致ス。彼是夕方夕飯時ニ勝方且那殿安兵エ入来。拙者喜助止宿之事。

一廿五日。上々天気。早朝拙者金女九条寺エ参詣。夫ヨリ所々へ廻り、右四条芝居本家楽屋見分、則大勘定頭立会、右木家膳<sup>カ</sup>之義当年ハ分方若者ヨリ相賄小家賃金三拾五兩ニ定、尤昨年之通り相定置、早々帰ル。

但シ留主中谷尾卯兵衛使ニ参り、過日之金具代金早々呉候様申来り候。

一中飯支度致、早々水口氏入来ニテ種々示談致居、則西

右内方エ祝之品買求メ、支度罷在候処、藤野氏ヨリ梅殿一件ニ付、明廿六日午之刻後早々御見へ罷可出様申来り、則其意承知。尤水口氏御引取、夕飯ニ過、喜助、西右内方へ使ニ遣シ候而、拙者入湯致テ其後辻子止宿之事。

一小弥太、亀太良、茨木村ヨリ夜四ツ半時ニ右兩人共帰ル。夫ヨリ夕飯支度、且又外安兵衛耆人入来。夜九ツ半時ニ皆々止宿致ス事。

廿六日。雨天。午之刻ヨリ寒天氣ニ成、則今日梅園殿御目見ニ付、早朝県出張所へ藤野氏エ面会。則午後早々ニ参殿之約定。拙者帰ル事。

一河原林彦三良入来。則西氏祇礼之焼物持参。昼飯支度。夫ヨリ買物出ル。

一拙者小弥太支度後、早々喜助召連、梅園殿へ目見出勤。則藤野氏エ寄、夫ヨリ御殿エ皆々出ルヨリ右披露之金打替ニ遣シ、夫ヨリ献上金口々左ニ御座候通り

覚

一金札式千疋 御本殿正三位献上

一同 式千疋 同御子達式方

一同 五百疋 同 奥玉江様

一同 六百疋 同 近習三人エ

一同 貳百疋 同 田中主馬エ

一同 三百疋 同 女中衆三人

一同 四百疋 同 下部四人エ

一同 千疋 御裏殿從三位

一同 五百疋 同 御家来中エ

一同 五百疋 御隱殿正三位

一同 五百疋 宮本一間齋

一ノ金札貳拾卷兩卷分 河原林連入用

此内金五百疋 御隱殿献上分預り

引ノ同金貳拾兩 正味出金高

又外 一金札二百疋 御本殿献上五良分

一同 貳百疋 同 近習衆 同人分

一同 百疋 御本殿女中 同人

一同 百疋 同 下部 同人

一ノ金札卷百兩貳分 河原林五良分

二口合金貳拾卷兩貳分 兩人入用高

此外ニ金卷分三朱 小札打替料入用

同 貳分 役所看代、万蔵へ相渡入用

同 卷朱 右封金之節間違不足ニ相成

惣合ニテ

金貳拾二兩二分 惣入用高

又外ニ金卷兩卷分 合貳拾三兩三分也

右之通、口々包献上台ハ当借ニテ出ス。家来衆御前エ宮本氏ヨリ出ス。右之義早々下ケ直ニ家来夫々相渡ス。則

御前江御目見、夫ヨリ裏殿御目見夕方ニ相成、拙者、藤野氏、小弥太、喜助召連下ル。則下立荒烏丸辻ニテ藤野

相分連、夫ヨリ辻子へ帰宿ス。右三人共夕飯支度。拙者、小弥太入湯致シ皆々止宿之事。

一廿七日。上々天氣。彼是五ツ半時ニ小弥太出勤。拙者

帳合四ツ時後、伊勢屋長兵衛入来。万端嘶シ承り、彼是

等致候処、下村庄五郎入来。是又山林之一件。則昼飯支

度早々拙者出勤掛ケ、藤野氏面会。御殿エ参殿。暮六ツ

半時ニ小弥太、拙者共帰宿。猶又夕飯支度。拙者河彦入

湯。夫ヨリ止宿致ス事。

一廿八日。上々天気。彼は五ツ時西右内入来。猶又西山氏入来。則西氏上借屋之義相談有之。且又西山氏則伊賀川通舟仕法帳并絵図一枚持参ニテ慥ニ預リ、則午之刻ニ成、皆々中飯支度。早々西氏拙者河民屯所エ引払取調ニ行、西山氏帰ル。夫ヨリ屯所団どん三帖コクラ一座ブト一枚梅殿エ持参為致、則西氏河民相分レ候事。

一果出張所エ拙者行、藤野氏面会。梅殿出勤。早々下り、則鈴木氏エ参上。御酒頂戴。種々相頼、彼は四ツ時ニ引取、辻子ニテ止宿之事。

一廿九日。上々天気。早朝亀太通商司エ罷出、彼は五ツ時仙蔵入来。且又大工喜兵衛入来。地面之義示談有之。猶勘考返答、右兩人帰ル。夫ヨリ中飯支度後、早々芝居書付致候処、鈴木氏入来。則右芝居書附相渡シ、猶又三條西諸太夫家之儀御咄シ有之。則此義相頼、右鈴木氏御殿へ出勤掛ケニテ早々御引取被成候事。

一拙者夫ヨリ鈴木氏エ灯燈返弁蒸菓子一箱持参。夫ヨリ藤野氏面会、右金談致シ早々梅殿エ出勤。則万蔵大工エ

金札三拾両相渡シ、猶又来ル十五日相渡ス約定、且又諸払、右同日払ニ致、夫ヨリ河民御殿エ入来。借家屯所之品取片附之相談有之。彼は夕飯支度。拙者河民下ル。辻子エ帰宿。猶又夕飯支度、拙者入湯止宿之事。

一十一月朔日。上々天気。早朝河民部、拙者同道ニテ上ミエ行、中筋橋氏相尋、転宅ニ付、夫ヨリ丸忠エ行、年回之膳部相頼、来ル七日当日之積リニ致シ、其趣河民部へ申帰国為致、国元之始末相頼置候事。

一紅筋勘宅エ行、他出ニテ、夫ヨリ木場へ立寄、県出張所へ行、藤野氏面会。昼飯後早々御殿へ同道出勤。種々先役尾崎氏之義示談。夕方下り上長者町ニテ藤野相分連拙者小弥太辻子へ帰宿。入湯致皆々止宿之事。

一二日。上々天気。早朝髪月代拙者彼は午之刻ニ相成、昼飯支度。早々御殿エ出勤。則出掛お三津入来。打捨、鈴木氏エ立寄候処、主人御殿ヨリ下り無之、早々梅殿エ出勤。夜五ツ時ニ下り県出張所エ寄、藤野氏面会。種々大久之引合之一件示談致シ、夫ヨリ木場へ寄、彦市他出ニ付早々引取、右辻子へ帰宿。入湯止宿之事。

一 右おみ津彼是夕方迄相咄し、則夕方帰ル事。

一 三日。上々天気。早朝拙者西山氏ヨリ被頼候伊賀川之

一件ニ付三条屋鋪橋春齋方へ参上。則右仕法書并絵図相

見セ段々示談致シ候処、何分支配違之場所且ハ願人丹州

之事故献白アレハ格別願書ニテハ六ツケ鋪趣、依而早々

帰宿仕、朝飯仕度。夫ヨリ上々上り、若代氏エ寄、金

子当借、則金二拾兩請取木場エ寄、右伊賀川之一件、西

山氏エ相咄シ、外ニ種々示談。彼是昼ニ相成、中飯頂戴

致ス折柄、丹後藤九郎入来。尤拙者尋ニ参り、段々奉公

口相頼、無致方金札沓分遺ス。取替、夫ヨリ借宅見ニ西

山氏ト拙者喜助召連、所々見分、且又丸太町藤清エ

行、御殿之紙之通為致、夫ヨリ猶又所々家見ニ参り、伊

勢長エ立寄、種々示談。早々帰宿。則辻子帰宿入湯シテ

止宿之事。

但シ捨弟五良帰宿。是又止宿之事。

一 四日。上々天気。早朝拙者五良ト同道、御殿エ出勤。

所々立寄、兩人共出勤。御前種々御咄シ彼是夕方迄相

結メ夕飯後下り、尤喜助迎ニ参り、同道。鈴木氏エ寄候

処、御殿御下り無之。則拙者帰国之義御家内エ申置、

早々引取、夫ヨリ帳合致入湯。辻子止宿之事。

一 五日。上々天気。朝入湯帰宿折柄ニテ水口隼太入来。

兵部省隊中之御咄シ有之。則十五日之間暇相願聞届ケニ

依テ此段水口忠助方へ書状届ケ呉候様之頼ニ付承知致、

且又種々御咄シ有之折柄、山国社司継目之一件県エ願書

之調印、且ハ上ミエ登り之節入来可致様書状至来。則使

エ昼飯後早々参上可致申、使者帰ル。夫ヨリ中飯支度。

早々若代エ面会。夫ヨリ県藤野氏面談。種々示談。早々

引取。木場エ立寄皆々留主中ニテ早々引取。夫ヨリ弁当

買求、夕方帰宿。国元ヨリ為吉年回之買物取上京致、猶

又買物申来り候分買求、入湯皆々止宿之事。

一 六日。上々天気。早朝帰国支度。則為吉、喜助召連、

丸屋忠七方エ寄、年回之荷物取ニ寄、則幸助共右買物為

持、則同道ニテ帰国致、杉坂橋政中飯支度。則錢七百元

払分之内相渡、夫ヨリ所々休ミ、且又西氏エ立寄、夕方

庄屋エ寄帰宅。皆々中飯酒支度入湯止宿之事。

但シ翌七日期相勤申候。九日おいて藤寛娘入行。夫

ヨリ日々私用致候事。

十一月十四日。中天氣。早朝種々支度上京致ス。則西氏エ立寄、右屯所弘方示談。右西氏モ来十六日頃ハ上京之約定。彼是午之刻ニ相成、立ヶ坂峠ニテ与七帰京。則同道杉坂橋政中飯致ス。夫ヨリ替川ヨリ入京。彼是暮半辻子エ着。則万蔵并ニ米吉大工与七入来。則右之者酒肴催シ、拙者夕飯支度入湯。彼是九ツ半時ニ皆々引取、拙者止宿事。

一十五日。大雨降り。四ツ時拙者髪月代帰宿之折柄、材木屋事丹波屋敬次郎入来。則同家お勇娘之儀段々相頼、則嵯峨表之儀相尋申候得者、是ハ則仲人ヲ差入金百五拾兩借用。尤一兩日前ニ金五拾兩相渡シ、残り金百兩一ヶ月金五兩宛之崩シ添之約定ニ相成、且又外ニ少々借財有之候得共、聊之事故此段御案心可被下候。乍併外ニ御聞合セ可有之、何卒可相成候ハ、一日茂早々御遣シ被下度段御頼ニ付荒々約定取極メ、則日限来ル廿五日カ廿九日ニ申請度旨被申候ニ付、其趣早々国元エ申遣シ、其支度之通ニ可仕様可致候。篤与約定致シ引取、夫ヨリ中飯支

度。早々御殿ヨリ下部来、早々出勤可致様申来リ、早々出勤。道ニ大雨降り困り入候。則午之半刻出勤ス。御前挨拶并ニ一統、夫ヨリ夜五ツ時迄借財之参談。尤出許之一件種々示談。右五ツ時ニ下り中立売梟藤野氏ニ面会。万蔵渡シ金之儀段々示談。則若代氏エ拙者ヨリ返済之金札廿兩藤野氏エ相渡シ、万蔵之処相頼、彼是四ツ時成辻子へ帰宿。皆々芝居行。拙者止宿事。

一十六日。中上天氣。早朝帳合日記相認、国元河庄書面相認、入湯。御殿エ出勤掛鈴木氏エ相尋申候処、村上様出勤ニ付、猶今夕方ニ面会之約定。早々梅殿拙者出勤。壬生村庄屋呼寄段々相尋、則大工勘助方田中氏引合ニ遣シ、折節右本人他出之趣ニテ帰官。中飯支度。則大工勘助附添町役夕方ニ参殿。段々引合之上金札四拾兩相渡シ、右跡之分者来春仕法之上少々宛ニテ茂差入可申約定。夕飯支度早々拙者下り、則鈴木氏エ約定通り参上。夫ヨリ村上様ニ面会。万端相頼置早々引取、猶又鈴木氏ニテ種々相談。彼是四ツ時ニ帰宿。猶又夜飯支度、入湯。夫ヨリ止宿之事。

一十七日。上々天気。早朝拙者加賀甚ニテ小札兩替。夫ヨリ黒門紅勘宅へ参り、右本人エ面会。梅殿金談相頼置、且又外ニ捨弟養子之口示談。早々辻子帰ル。丹方入来并水庄入来并吉蔵入来。則山林之義来ル廿五日迄相待呉候様先方被申候由、此段承り候。猶又三条橋之儀段々示談。是又追々松屋等示談仕、其上手続書可致約定ニテ兩人共御引取、且又丹方入来。右梅殿普請入用金渡シ方相頼、是又帰ル。則中飯支度。早々拙者御殿エ出勤。則諸口払方致シ、凡金百兩計相渡シ、尤拙者出金。彼是夜五ツ時ヨリ帰宿。夕飯支度止宿之事。

但シ藤野氏ヨリ書状至来。則丹州小塩森市へ飛脚遣ス事。

一十八日。上々天気。早々朝飯支度。早々則丹波屋慶次郎方へ行、加イ丁株之儀相咄シ、右仁ニ名前取極メ、尤町内年寄エ右之次第示談可有之約定ニテ早々引取、且又国元野上氏ヨリ書状至来。則虎吉殿上京持参。入手致ス。夫ヨリ日記并ニ勸定致。

一七ツ時、水口氏入来。種々国元御咄シ有之。夕飯酒差

出シ、夜五ツ時御引取之事。

一夕方河原林五良帰宿。則大工勘助、猶又彼是申立候ニ付示談ニ帰り、其夜入湯兩人行。辻子止宿之事。

一十九日。上々天気。早朝右五良エ金五兩相渡シ、右大工方エ寄、引合之上渡シ、西府エ罷出、濟状可差出答ニテ出勤ス。拙者、猶又鈴木氏エ丹波屋慶次郎之所名前書持参。夫ヨリ御殿エ出勤ス。右大工勘助一件弥々濟状ニ相成、右之金五兩相渡ス。拙者夕方下ル。夫ヨリ直ニ辻子止宿致ス事。

一廿日。上々天気。早朝水口氏入来ニテ、且又喜助国元ヨリ飛脚帰ル。上ニ宿早朝帰ル。右水口氏隼太一件、福知山エ飛脚遣ス呉候様被申、且又木場一件種々示談ニ付、右水口氏、拙者同道ニテ大嶋宅エ行。則本人留主中、夫ヨリ右北野里村エ同道。則隼太之儀申立、急ニ福知山エ呼ニ遣ス。使者差出シ呉候与申候処承知有之。急ニ差遣シ可申約定ニテ天満宮参詣。夫ヨリ堀川中立亮ニテ水口氏与相分レ辻子ニテ中飯支度シ、夫ヨリ拙者エ伊勢長お三津入来。則段々申入、猶又篤身勸考可仕様申、拙者新



門前池金方エ参上。則金談之一条段々本人エ面会。示談

致、夫ヨリ谷尾仙吉エ寄、夕方辻子エ帰着。

一五良下り、則大久御殿エ参殿。今日金四百兩相渡シ具候半テハ仕送り方之義六ツケ敷様急明日ヨリ断ニ可及次第、且又木茶屋与市政府エ出願之儀申来り、迎茂此姿ニテハ六ヶ舗、猶明日藤野氏相談之上取極メ、御前エ可申上約定ニテ兩人喜助入湯、止宿之事。

但シ、国元ヨリ幸助庄屋之書状至来。右久美浜県拝借

金来ル廿五日迄持参可致様、依而水口氏エ差遣シ并ニ宇兵衛之金、猶又仙蔵ニ申入候様申返ス事。

一廿一日。上々天氣。早朝兩人共出勤掛県出張所エ寄、

藤野氏拙者五良兩人面会。丹万入来。右梅殿始末右三人

示談。拙者共迎茂世話難出来候。何分多分之借財、且ハ

当年壬生村収納三分五厘定之儀願出候ニ付、将又大久八

百兩仕送り有之。是又当冬収納米ニテ迎茂勘定相立不

申、依而致方無之。拙者及断候ニ付、水口氏入来。段々

示談。是ハ国元社司一件ニテ明日水口氏馬路出張所エ御

出役被下候約定ニテ右三人共中飯酒支度。然ル処木場ヨ

リ拙者共呼ニ参り、彼是七ツ時ニ皆々引取。

一拙者木場エ寄、西山氏面会。則伊賀川開発之儀示談有

之。夕方帰宿。夫ヨリ入湯。尤五良御殿エ行、帰宿。兩

人共入湯止宿ス。但シ御殿ヨリ帳面持帰り、其夜取替之

帳合日記之事。

一松屋弥助入来。則芝居売捌之義示談取極メ、尤地面書

付致テ相渡ス約定事。

一廿二日。上々天氣。早朝五良右御殿取替之金書附持

参。県藤野氏エ渡ス。則梅殿主人県エ入来。則拙者及断

候儀藤野氏ヨリ申上候処、早速承知事ニテ取替金証文ニ

相成約定ニテ五良早々引取帰ル。夫ヨリ髪月代致ス事。

一天利助入来。則山本ヨリ芝居ノ義売払之義松屋エ行候

処、何分拙者へ示談可致旨申候ニ付、色々被申候得共、

何分山本氏之儀故断り申與と申置早々引取ル。

一拙者髪月代帰り掛ケニ松屋方へ行。右芝居地面之義申

入候処、天利山本行。猶又種々示談有之趣、且又木作参

り面会。地面之義山城屋エ売値茂色々申候間種々之示談

有之。且松屋へ引取儀示談有之、其趣早々掛ケ合返事承可

申約定ニテ帰宿ス。

一拙者中飯、彼是終日休足。夕方入湯。夕飯支度五良止宿之事。

一夜五ツ時鈴木氏入来。芝居地面之儀御咄シ、則松弥之一件木作山城屋之義相咄シ種々示談。彼是四ツ時ニ帰宿。夫ヨリ皆々止宿之事。

一廿三日。上々天氣。早朝拙者小弥太示談之上紅勘エ今出川御殿諸大夫石田氏エ養子之儀聞定ニテ右紅勘エ拙者直ニ参上。面会致シ、段々示談相頼置早々引取。夫ヨリ

県出張所藤野氏ニ面談。右梅殿金談一条段々示談。中飯後引取、木場エ寄、是又右川之儀段々示談。早々引取。夫ヨリ山科氏エ行候折節、留主中万端相断り早々帰ル。

夫ヨリ寺町ニテ兵衛様ニ面会。梅殿エ立寄、猶太良面会。早々引取ル。夫ヨリ丸太町藤屋清右エ門御殿之紙相断、名札紙切シ半切百枚買、辻子へ早々帰宿。若州高浜丹嘉ヨリ着色々飛脚ニテ着。髓ニ入手致シ候。小弥太帰宿不致。拙者入湯止宿之事。

一廿四日。上々天氣。早朝拙者福多目壱桶小鯛一枚くシ

壱疋持參。若代氏エ進上。則国方社司一件示談願書向相

頼、早々引取。則小弥太帰宿中飯支度ス。早々喜助召連御殿エ炭引合ニ行。其跡エ河清入来。段々御咄シ有之。

則金札借用致度旨相頼ニ付当座金五兩貸渡シ、然ル処藤野氏入来。梅殿取替金相咄シ、猶又国方社司奥山一件種々示談有之。彼是夕方被引取候。

一河庄方エ書状相認、河清家来為持遣ス。尤お勇縁談之儀、当月中申請度旨先方申居次第、余日無之故清蔵国元エ明日遣ス事。

一拙宅家内ヨリ書状、飛脚幸助上京持參。尤東京倅エ遣ス書面差登シ、依而返事相認メ遣ス事。

一小弥太、喜助、梅殿炭取ニ遣シ、猶明日之約定ニテ早々帰宿ス。

一山科從四位ヨリ西右内拜借金之一件、当月中返濟之書状送来ニテ、是又添状相認、右幸助へ遣ス事。

一皆々引取、小弥太、拙者、喜助、辻子止宿之事。

一廿五日。上々天氣。早朝拙者山科從四位エ則福為一桶小鯛一枚進上、持參、面会。種々示談。小弥太義是又相

頼、家役之義同様頼置、引取ル。

一紅勸入来。則捨弟儀石田氏断之義申来り、猶又外方へ  
宜鋪方相頼、早々引取ニ相成候事。

但し、伊丹宗エ西上京尋ニ拙者立寄。

一拙者大工与七宅エ寄、則丹万藏面会。梅殿炭取ニ行  
事、延引致ス。早々引取、白峰宮多氏エ寄、面会。種々示  
談。早々引取、夫ヨリ県出張所エ寄、藤野氏他出ニ付、  
是又早々辻子エ帰宿。中飯支度。夫ヨリ東京遣ス書面相  
認、日記等帳合致、彼是夕飯支度、入湯。止宿之支度之  
折柄

一夜五ツ時ニ丹波屋慶次郎入来。則カヤ丁之一件、且又  
神吉村ヨリ捨兄上京ニ付万端断旁々縁談示談有之。早々  
御引取、夫ヨリ拙者芝居行之示談。夜四ツ半時ヨリ見物  
ニ拙者小弥太猶金喜助召連行事。

一廿六日。上々天気。則丹波ヤ慶次郎外ニ吾人連芝居入  
来。夫ヨリ終日皆々見物。然ル処八ツ時丹州西右内使ニ  
吉兵衛入来。則西右内上京延引山科エ断之義伝言ニ芝居  
迄来ル。夫ヨリ皆々同道帰ル。繩手美の佐夕飯酒肴支

度。皆々辻子帰宿。入湯致、止宿之事。

一国元エ遣シ候飛脚清蔵、則河庄返書持戻り、右当月節  
迄之処御延引其趣呉候茂申、返書来ル事。

一廿七日。雪降テ困り入候。早朝清蔵入来。則明日帰国  
ニ付返答書持帰ルト申、且又灰屋山中刈賃申来ル。則金  
二兩別口相渡ス。并ニ大工喜兵衛入来。国元帰国之節同  
道頼ニ来ル。早々引取、夫ヨリ喜助丹州エ行、小弥太、鈴  
木氏、村上氏、則大くシ一本村上進上。小鯛二枚小くシ  
一ツ鈴木氏エ進上。折節他出ニ付早々帰ル。尚又昼後ニ  
参ル約定致ス。帰宿中飯支度シテ拙者丹波屋慶次郎殿方  
江参上。則河庄<sup>(虫クイ)</sup>□□之書面持参。右日限之義段々示談  
ス。尤灯燈返却。且又御酒頂戴。則来月三日取結之約定  
且結納之品拙者預り彼是八ツ時ニ引取、夫ヨリ四條通り  
行、裏木綿外ニ買物致シ、夕方辻子へ帰ル。夕飯支度入  
湯致シ止宿之事。

一小弥太義鈴木氏エ猶又昼後早々行、右東京行之書并ニ  
短刀早々御届ケ御頼、尤面会外ニ種々示談。是又夜五ツ  
前ニ帰宿。尤止宿之事。

一廿八日。上々天氣。早朝甚寒。拙者右丹波屋ヨリ之結納預り国元エ差送度ニ付、中立売木場河清帰国ニ付、清藏エ為持遣シ、且又同家書面遣シ度ニ付相認、右木場エ持參相頼、早々帰ル。朝飯支度、治右エ門入来。種々示談帳合彼是中飯支度、早々芝居地面引合ニ行。所々買物致シ夕方帰宿ス。

一国元ヨリ下来為吉上京。則お勇儀右日限延引ニ可致様申来、且又社司之義ニ付水口氏ヨリ帰国可致様、是又伝言。則為吉止宿。拙者捨弟入湯シテ止宿之事。

一廿九日。中寒天氣。早朝帰宅支度。則為吉土産物求メ、然ル処大久手代入来ニテ小弥太示談。拙者為吉召連帰国致、杉坂橋政中飯。真弓村上ニテ彦三郎、仙蔵同道上京仕、面会。峠小休。夕方ニ帰宅致ス事。

十二月二日。早朝天氣。則同家お勇縁附召連上京。且又河原林實、是ハ国方用向ニ付拙者召連上京。依而お勇之出立目出度同家ニテ酒飯催、彼是五ツ半時ニ相成、尤喜助召連、野上氏エ立寄、西右内寄面談。杉坂橋政七ツ時弁当開、高ヶ峰灯燈附平五エ寄。則彦三、仙蔵、兵助面

会。夫ヨリ木場エ寄、河清別レ、右三人辻子エ五ツ半時ニ着ス。夕飯支度、拙者入湯、皆々止宿之事。

一三日。上々天氣。早朝丹慶ヨリ使女參ル。尚又丹宗入来。人数之尋、則其由篤与申入、右仁早々帰ル。夫ヨリ拙者髪月代、お勇入湯。買物ニ行、喜助、平五両掛取ニ行。仙蔵入来。彦三入来。小弥太、鈴木氏エ行。右皆々

中飯支度。早々買物髪月代致ス。尤拙者、彦三支度ス。

仙蔵買物相頼、彼是夕方先方赤松宗二郎今夜早ク御越之様書面ヲ以申来り、夫ヨリ皆々支度。皆々出立ニテ、則河清入来。暮早々拙者、彦三、勇、仙蔵、喜助同道ニテ行。河清、小弥太、お勝、お金、亀見立之事。則清三郎仙蔵辻子止宿致事。

但シ進物之扣エ

一先方ヨリ結納之返礼 上半紙二折 金五拾疋

一上下料金五百疋 一御酒 金二百疋

一看料 金二百疋 一桐三本入扇子箱一

一熨斗 一折 右目錄卷本

一大風呂鋪 卷 一二本入扇子箱 卷

一熨斗 一折

右丹波屋宗二郎様進上

一御祝儀 一金百疋 女中雇人江

親類書

一丹州桑田郡山国庄大野村 河原林小源太

一同所 河原林完吾

一同所 野上長兵衛

一同所 比賀江村 岡本源之助

一同所 中江村 西源三郎

一同州船井郡上里村 湯浅四良右衛門

右之通御座候 以上

河原林庄五郎

右持參致、目出度相納、彼是九ツ半時ニ歸ル。存外之御地走ニ預り、皆々辻子止宿之事。

一四日。雨降。早朝、河清、仙藏、嵯峨エ行。且又喜助

小道具為持遣ス。小弥太、鈴木氏エ行。丹慶江彦三、お

勝、おエ右方エ行。且又拙者今晚国元ヨリ人足入来ニ

付、祝儀等示談ニ參上。早々引取。

一拙者、長谷川江行。彦三郎、お来星考示談。禱祈相(カ)

頼、猶又拙者星祭り相頼ミ、彼是夕方帰宿致ス処エ

一国元善吉、源吉兩人タンス持參ス。則雪降りニテ困り

入、夫ヨリ右兩人エ喜助附添、右丹慶エ行宿ス。

一拙者、小弥太、彦三郎辻子ニテ入湯致、皆々止宿致ス

事。

一五日。大寒シ天氣。早朝大工喜助入来。則請取之内金

札拾兩相渡シ、夫ヨリ彦三丹慶エ行。右人足お勇向イ旁

拙者早々木場へ行、皆々面会。県出張所エ行、藤野面

会。過日国元示談之一件段々相談。則伊東、西一上京之

次第、是又明日馬路行之儀延引之示談、且又社籍之儀六

ツケ鋪趣、種々示談之折柄、伊東君出勤ニ付、夫ヨリ段

々右社籍之一件相詞候処、(カ) 逆茂社籍之願ニテ者取扱難出

来様被申、且又右是迄之四人并神主吉田官四人者則社籍

エ組立候得共、廿五人之分ハ神祇官詞濟之上ニテ右社籍

ニ組立可申間是迄之通ニテハ聞濟ニ者相成不申様被申、

依而伊東、藤野、拙者示談之上国元水口氏、辻、野尻、

河完吾外ニ横田、野彦書面を以木場ヨリ飛脚差遣し候。

則源助貸錢金三分二朱ニ定メ木場ヨリ遣ス也。

一拙者木場ニテ中飯支度。彼是夕方辻子エ帰ル。則丹慶ヨリ帰り、辻子皆々中飯支度。夕方ヨリ平五エ上ル。善吉、彦三召連、柳両掛持帰ル。拙者夕飯支度。入湯皆々止宿之事。

但シお勇辻子ニテ宿ス。翌日買物ニ行事。

一六日。上々天気。早朝皆々朝飯支度之事。

一下村為次郎入来。河藤借財頼之事。

一小島喜太郎入来。芝居壳捌示談之事。則午之刻ニ引取候事。

一丹波屋万蔵入来。梅殿一件大久ヨリ伝言。示談。是又早々帰ル事。

一お勇、お勝、喜助買物ニ寺町四条辺エ行。所々買物。

暮夜ニ入、皆々帰ル事。

一拙者昼飯後早々上ニ行。県出張所へ行、藤野氏面会。

種々示談。夕方帰宿。入湯致、止宿之事。

一七日。上々天気。早朝木場ヨリ友吉使拙者呼ニ参ル。

朝飯早々小弥太買物、拙者木場エ行。伊賀川之一件ニ付

則大庄面会。右川絵図面并ニ示談之趣相談有之。種々示

談致、彼是中飯支度。早々県出張所エ行、他行ニ付辻子帰ル。仲忠、仙蔵入来。猶又野尻氏入来。国方之一件種々承り居候処、丹万蔵入来。則大久方エ向ケ参り呉候様同道ニテ可参様、夫ヨリ県藤野氏誘引、夕方右三人同道ニテ丸太町大久エ行、則久八俣手代ニ面会。右梅殿之事件段々示談。則拙者、藤野参勤ニ相成候ハム、右大久モ心配可仕旨、則梅殿仕法書破見、則藤野氏預り置御酒肴頂戴。彼是夜五ツ時ニ辻子エ帰ル。夫ヨリ入湯止宿之事。

一八日。上々天気。早朝下村為次郎入来。則河藤取替金之儀、且又河セ山手金取引之儀相頼呉候様段々相談ニテ早々引取并ニ野尻氏入来。私用之旨ニテ橋兵エ御越統テ小島喜太郎入来。芝居松屋分丈ケ買請之示談差支無之哉相尋、別段差支無之様申、相別連早々帰ル。彼是夕方仲忠仲屋せい入来。種々相談有之。是又拙者勘考可致旨申、早々引取、且又天利之一件ニテ女来ル。種々心配之次第ニテ是又夕方引取。小弥太買物ヨリ帰、夫ヨリ皆々入湯致、止宿之事。

一九日。上々天氣。早朝木村勇天利一件ニ付相頼入來。

右之次第段々示談相頼候処エ、野尻氏入來。昼迄私用有之候間、午刻後木曾利エ行、県エ行、水口、藤野、拙

者、野尻立会可申約定ニテ早々引取処エ西右内并河彦三同道入來。彼是致、木村氏御引取、夫ヨリ西右内河彦段々等示談。則西氏ハ山科一件并ニ五ヶ村一件御咄し、河

彦社司一件種々示談。彼是午之刻ニ相成、西氏、河彦、伊八、野上下部小弥太中飯支度。皆々私用ニテ引取事。

一拙者中飯後早々具藤野氏相尋候処、他出中無程帰官面會。国方社司一件集會之義、今朝水口氏、藤野氏辻子向

ヶ同道之由、水口氏掛ヶ違ニテ拙者木曾利宿エ行。野尻氏伝言致シ木場へ行、無程水口氏入來。野尻氏入來。猶

又安本氏入來。則国元借財之一件段々示談。幸水口氏ト相頼、暫時延引之儀具ニ茂相頼、彼是夕方安本氏引取、

且又野尻氏篤太郎参り申候処、平五エ参ル様被申、是又御引取。夫ヨリ水口氏、拙者同道ニテ若代氏エ参り、右

若代ト藤野氏同道ニテ辻子エ御越之由、彼是致シ候処、油小路上長者町辻ニテ出合、猶又河彦参ル。夫ヨリ堀川

京屋行、最早仕舞。夫ヨリ魚宗エ行。御酒相催シ、右社

司之事件内談致ス。則若代、水口、河原林、藤野、河彦、右之者段々相談。彼是四ツ時ニ成、皆々帰ル。若、藤、

水、堀川辻ニテ相別レ、夫ヨリ拙者、河彦、辻子エ帰ル。則兩人共辻子止宿之事。

但シ魚宗入用金二両卷朱ト五百文也。尤二両拙者扣エ一朱ト五百文藤野扣也。

一十日。中天氣。八ツ時ヨリ雨降りニ相成、早朝拙者上ミ田中精一并ニ山本則木場一件ニ付、九日夕方ニ尋ニ辻子

へ参り今早朝拙者ニ参り具候様頼置候ニ付、早朝参ル。則論（ト）福寺上立売上ル西側宅エ参り、則田中氏面會。木場

之一件段々示談有之。拙者之存意篤与相咄シ候処、山本氏并ニ池田屋参り、皆々面會。猶又木場之一件段々示談。

彼是昼ニ相成、中飯支度ニ預り、早々帰ル。夫ヨリ木場へ寄、県へ行、木曾利宿相尋、尚又若代氏へ行、面會。

社司一件并拙者之一件相頼、明日中ニ右願書相認被具候様相頼、引取、猶又木場エ寄、早々帰ル途中河貢出合、金

札拾五両当借致、辻子エ帰ル処、小弥太買物持、是又帰

ル。彼是夕方其夜入湯致、帳合日記等致、止宿致ス事。

一梅殿田中氏入来。則菓子持参。右<sup>(虫クイ)</sup>品留主中ニテ預リ申候事。

一仲屋忠兵衛、おせい入来。留主中故猶明朝入来之由申引取事。

一十一日。中寒天氣。早朝仲屋忠兵衛、おせい入来。則炭世話一件頼ニ兩人参り、則河内山半吾様書面附相頼ニ遣ス事。

一田中精一使池田屋入来。書状至来。早々右使帰ル事。

一水口氏入来。国方社司并ニ田中氏之一件、則書面見セ申候。尤水口氏早々御引取。

一丹波屋万藏入来。梅殿馬具持参ニテ金拾五兩貸渡シ、中飯支度早々帰ル事。

一茨木北田中村ヨリ使。書面、則小弥太養子一件、則小弥太婦り見セ示談之上小弥太木場へ廻り寺町二条茶屋へ右使面会ニ行。則茶屋主人面会。段々示談之上辻子ニ帰ル。河彦上ミヨリ入来ニテ中飯支度。猶又丹慶方へ行、同所止宿ス。拙者皆々入湯致シ止宿之事。

一十二日。上々天氣。早朝拙者金談之儀ニ付木場へ行、

西山面会。右工<sup>(カ)</sup>之一件示談致ス処、有栖川阪部入来。則

面会。金談口々段々引合致シ、早々引取、一条油小路ニ

テ野尻氏面会。社司一件段々示談。夫ヨリ上立売伊丹宗

迄同道相別、拙者共西右内面会。御茅輪役諸家寒氣見舞

進上物并ニ明日廻ル約定。彼是四ツ時ニ成、早々引取。

猶又木場エ寄、野尻氏面会。夫ヨリ木曾利宿へ寄、水口

氏面会。早々引取。辻子エ婦り中飯支度ス。夫ヨリ早々

彦三写物相頼置、拙者谷尾仙吉并ニ芝居エ行。喜太郎昨

日芝居エ行。松屋エ引合之一件段々承り、所々買物、油

小路ニテ下駄<sup>(毛)</sup>住文致シ、夕方帰ル。則小弥太、鈴木氏エ

他宿ス。跡エ膳所金談之人兩人入来。段々示談。是又早

々引取ル。拙者入湯致、止宿之事。

一十三日。上々天氣。早朝松屋弥助、山本兩人芝居之事

件長談、何分山本無利計申立、四ツ時今一応小島喜太良

示談可致様申、引取、兩人共相別候事。

一寺町二條浅田氏小弥太養子之事件入来。面会。段々相

咄シ早々引取事。



一中立亮仲屋忠兵衛、せい入来。則右此度之一件并ニ当冬金借用致度旨、おせいヨリ相頼、早々引取ル事。

一河原林貢入来。小弥太帰ル。拾ヶ参会席之儀示談有之事。

一国元中久保文三郎社司一件、野上、河原林ヨリ参事上京ニ付、其趣、且又押而相頼呉候様飛脚旁々入来。則書面之預り返書致シ、猶又水口氏相談。七組惣代ヨリ廻状之一件、尤帰国之辺返書飛脚ニ中久保氏相頼、是又早々帰国之事。

一水口氏入来。県参事上京ニ付社司名主之儀昨日ヨリ被仰聞候次第示談有之。右七組之返書致シ、夫ヨリ中飯支度酒肴支度。彼是ハツ時ヨリ田中精一宅エ拙者兩人同道ニテ参ル。則面会。山本大嶋池田ヤ面会。御酒頂戴。段々示談。則池田屋払金并外金五拾兩被頼、彼是夕方兩人引取、則其趣承知ニテ帰ル事。

一野尻氏入来。則社司之示談。水口氏、彦三、河貢相談仕、皆々中飯支度。酒肴共相頼シ、則参事進上物河貢受合早々上ミエ行。右進上物相買求メ申、且又野尻氏私用

之事。

一小弥太<sup>トウ</sup>牛刻早々御茅輪役寒氣見舞ニ西右内透引ニ伊丹宗エ喜助召連行、然ル処西右内勝手ニ付、多氏エ参上ニ付、猶明日西氏ヨリ砂汰<sup>サツ</sup>可致趣、依而小弥太木場エ金談之一件ニテ寄り、早々引取候事。

一夜五ツ半時若代氏エ水口、拙者兩人立寄、則県参事差出ス社司書附并進上物之示談致、早々兩人共引取、水口ト相別、拙者辻子エ帰ル。油小路下長者辻ニ而貢出合、途中ニテ示談。辻子へ帰ル。夕飯支度入湯止宿之事。

一十四日。上々天気。早朝木村氏入来。則お勝之一件示談。且又鈴木膳所金談ニ兩人入来。則小弥太ト示談。早々引取ル。右小弥太西氏エ誘引。喜助召連諸家寒氣見舞ニ行。彼是木村氏中飯支度。早々引取、拙者若代氏エ水口面談出ル処エ林喜平次、人足耆人入来。則国方拾ヶ参会相動可申様申来ル。早々相別拙者木場エ行、若代氏エ寄り、右水口ヨリ県参事歎願一件相尋、木曾利エ行、水口氏面談。則拾ヶ参会之一条示談仕、猶又社司之一件篤与相頼置、夕方早々帰、夕飯支度ス。折柄河貢入来。并

ニ木村氏入来。右天利之一件段々相談。是又早々御引取、拙者入湯止宿之事。

一十五日。上々天気。早朝太元明王参詣支度。則拙者、小弥太、河貢、喜助召連、伏見稻荷、夫ヨリ藤ノ森、夫ヨリ六地藏エ行。太元エ参詣。彼是藤森中飯支度。太元小休。右中飯料金壹分ニ朱ト四百文小休。酒肴代金壹分一朱、河貢兩度共扣エ彼是夕方帰京。則留永町若鶴ニテ夕方酒肴支度。カゴニテ夜五ツ半時々、辻子エ帰宿之事。

但し喜助、お勝同道帰ル。猶又帰ル事。

一十六日。上々天気。早朝河彦、丹慶ヨリ帰ル。夫ヨリ若代エ使同道。水口入来。午之刻後早々若代エ集会之約定、早々引取。大工喜兵衛入来。猶又西右内入来。則西氏、河彦中飯支度、右兩人買物ニ同伴。拙者若代氏エ集会。則水口氏面会。藤野氏相待、彼是夕方藤野入来無之。夕飯酒肴頂戴。五ツ時喜助迎ニ来ル。猶又藤野相尋ニ遣シ、四ツ時迄相待、水口木曾利宿拙者喜助、辻子エ帰ル。止宿之事。

一河貢小弥太昨日ヨリ帰り無之、喜助呼ニ遣ス。則河貢

若代氏エ夕方拙者尋ニ参り、早々木場エ引取事。

一十七日。上寒天氣。早朝拙者水口氏約定之通若代氏エ行。夫ヨリ木曾利宿エ参上。則藤野氏入来。依右三人面会。則今日県大参事御発足ニ付継目之願書相認、調印差出ス約定ニ而、水口、拙者、若代氏エ行、右願書相認、調印。彼是午之刻エ相成、鶏糞相催シ、則水口金三分扣エ酒頂戴。彼是七ツ時各々印形預り、木場へ河貢エ返済。夫ヨリ辻子へ帰り、入湯致シ、止宿之事。

一十八日。上寒天氣。早朝阪部氏入来。小弥太金談。拙者障子張替。木村入来。小弥太金談ニ出ル。終日拙者、右用向相掛り候。彼是八ツ半時ニ相成、摂州茨木岡部氏清八兩人参り、則小弥太縁談取結之一件、夕方則寺町エ引取、木村夜五ツ半時引取。拙入湯致シ止宿之事。

一水口氏入来。明日帰国之咄シ有之。且又河貢入来。金談之示談有之。早々御引取被致候事。

一十九日。上々天気。早朝ソウシ髪月代入湯。彼是中飯。小弥太帰ル。皆々中飯支度。八ツ時ニ吉村寛十郎、

清八兩人入来。則小弥太結納持参。則左之通り。弥々来

ル廿三日ニ取極メ御酒肴相催シ、夕飯差出シ、夜早々兩人引取之事。

一上下料 金札三兩

一御櫛（つゝ） 金札二千疋

一御肴 金札八百疋

メ 以上金札拾兩 浅田永安

河原林小源太様

一桐三本入扇子箱 クリ台ニノセ

一大熨斗 菅巻 クリ台ニノセ

右之通持参ニ付、則祝儀金札二百疋外ニ金百疋焼物料半紙ニ折返上。家内皆々夕飯支度。則国元善吉上京。皆々辻子ニテ入湯、止宿之事。

一廿日。上々寒天氣。早朝買物、則善（兵クシ）□国元エ右小弥太縁談ノ衣類取ニ遣ス。夫ヨリ善吉召連所進上并小弥太買物ニ行、四季三人共中飯。酒支度善吉七ツ時々上ミエ上り、明日帰る。拙者小弥太兩人夕方辻子へ帰り、夕飯支度。入湯、止宿之事。

但シ、留主中屯所主人并丸久入来。尤屯一件談ニ有

之。四ツ時々極寒冷敵敷候事。

一廿一日。中寒天氣。早朝大工喜兵エ入来。金札五兩貸、夫ヨリ小弥太兩人買物ニ行、藤清夫メ買物。留主中岡部常右エ門入来。段々進上物内見。中飯支度。彼是八ツ時ニ御引取。拙者兩人買物ニ行。猶又伏見ヨリ天利、小兒兩人連来ル。是又中飯。兩人共支度ス。拙者、小弥太兩人買物ニ行。所々参り、夕方ニ帰ル。則夕飯支度。彼是五ツ半時ニ国元ヨリ喜助、為吉、丹久、右三人上京。夕飯、酒支度。皆々入湯、止宿之事。

一廿二日。大雪降。皆々困り入、銘々私用。夫々使ニ行。拙者買物之他出中エ山国上黒田邑之衆中、山林山手金断ニ入来。嵯峨エ行。跡エ帰ル。為吉、伊丹宗ヨリ次上下持帰ル。彼是四ツ時ニ成、丹久私用終日右小弥太持ニ付色々取掛り居候事。

一八ツ時吉村寛十郎并ニ清八入来。則途中ニテ清八出合。則明日取結之儀先方ヨリ少々間違之由申来ルニ付入来。夫ヨリ早速示談。明日之処本人菅人ニテ猶明春之事ニ致度旨被申、其段三人示談之上本人丈ケ明日参上之約

定ニテ吉村氏、清八早々引取。

一伊勢長お三津見立旁々入来。夕飯支度見立早々帰ル事。

一丹慶内お勇見立旁々入来。夕飯支度当方<sup>(鼠ク)</sup>宿ス并ニ慶次郎見立入来。早々引取之事。

一国元河彦上京。則大雪降ニテ四ツ時着ス。則夕飯一宿明朝帰国致ス事。

右之通ニテ皆々入湯致シ、夫ヨリ止宿之事。

一廿三日。上々天気。早朝小弥太、為吉支度。河忠次郎并仙藏入来。見立、尤河忠祝、則金百疋杉扇子箱持参。

目出度受納。夫ヨリ本人始皆々出立。御酒肴飯支度、六ツ半時右兩人出立ス。仙藏、河忠引取。猶又丹久帰国。

尤拙者祝儀下駄買求手マリ色々右丹久持帰ル。河彦同道ニテ帰ル。彼是五ツ半時相成事。

一高室治左エ門入来。河藤勘定頼之事。

一池田屋本人田中精一使者ニ参り、則水口氏書面之次第申遣シ早々引取事。

勝心配致ス事。

一八ツ時後田中精一使山本氏入来。過日頼之金談示談。早々御引取之事。

一若代昇作ヨリ本多氏之書面持参并菓子箱卷ツ持参。預り置候事。

一河原林五郎縁談。則浅田永安殿エ進上物。尤土産物之品々左之通ニ御座候。

目錄

一熨斗 一本

一扇子箱 一箱 此代金卷朱四百文

一御酒料 金二百疋

一御檣料<sup>(カ)</sup> 金二百疋

一白州木綿一反 此金一兩二朱ト二百五拾文

御老母様

一結城鴛一反 同金三分三朱ト五百三拾文

おたかさま

一中形木綿一反 同金卷分三朱 姉子さま

一福輪小帯一筋 同金卷分ト百文 妹子さま

右以上 河原林五郎

浅田永安様

一染地紋附 一反此代金二分 清八殿

一金五拾疋半紙二折 清八殿御家内江

扇子袋入 二本

一金五拾疋半紙二折 出入方六人エ

扇子袋入二本

一金二拾五疋半紙二折 浅田内召遺<sup>(通)</sup>四人エ

扇子袋入二本

ノ金三分二朱 金二分 錢二貫文 扇子代

又 沓分 錢沓貫六百五拾文 半紙代

一三巾風呂鋪 一枚 此代金二朱 村方役人エ

一三巾風呂鋪 一枚 此代金二朱 吉兵衛殿エ

一中形木綿一反 代金三分 岡部常右エ門内エ

一親玉マンシウ 五十代錢沓貫五百文

右同所 子達エ

一室来豆一箱 此代金沓分ト二百文

浅田内子達

惣ノ金六兩二分三朱ト錢六貫六百三拾四文

入用高

外ニ

金沓分沓朱 右木具台料

金二分二朱ト三百五拾文

右小弥太持參紙品々料

金二朱 右同断水引ノシ料

合金七兩三分ト錢六貫九百八拾四文、此度入用之分右之

通持參ニテ遺<sup>(カ)</sup>シ候事。

一夕方仙藏嵯峨三ヶ所ヨリ帰り、河貫入来。金談相頼、

右兩人共上ミエ帰ル事。

一夕方上黒田村仁右エ門外二人栃之木山山手金断<sup>(カ)</sup>ニ參

り、段々引合之上明日中ニ金二百兩持參。跡二百兩国元

ニテ持參、都合四百兩ニテ当冬分相待可申約定ニテ右兩

人共帰ル事。

一夜五ツ時仙藏平五ヨリ野上町組山手金百兩河勘使ニテ

仙藏持參ニテ請取申、猶又早々平五エ引取事。

一喜市大和ヨリ帰京立寄、早々帰ル。猶又早々藤野氏

書面持參。是又早々引取、夫ヨリ夕飯支度、入湯致止

宿之事。

一廿四日。上々天気。早朝ヨリ国元買物取調致シ、大金兩替龜太行。彼是五ツ半時中立売大嶋氏入来。段々頼之金種々示談。早々帰ル。木村氏入来。油小路エ引合ニ行。拙者若代氏エ中飯後早々行。則本多氏エ渡シ金二拾兩相渡シ、(傳) 日之勘定書段々御断左兵エ上京。早々引取。夫ヨリ丸屋忠七拾分金四兩相渡ス。夫ヨリ北野里邑方エ行。集太(集)之一件、段々示談。急速福知山エ飛脚遣シ吳候様申置、早々辻子へ帰ル。

一夕方上黒田村組合中三人入来。則山手金百兩持参ニテ段々断ニ相成、猶国元ニテ精々差入可申、当分是丈ケニテ断ニ付、右金受取可申事。

一喜助正月買物ニ遣シ、則買求メ帰ル。大工兵衛門木品半方書命ジ持参致ス事。猶明日見分ニ罷出可申約定、夫喜市(喜)為召連入来。早々引取。

一拙者夕飯支度、入湯致、止宿之事。

一留主中山科従四位入来。明日面会致度旨申置、早々御引取之事。

一廿五日。寒天氣。早朝拙者髮月代致ス。右払祝儀等遣

ス。則留主中エ大嶋吉兵衛ノ鶏玉七ツ至来申請、尤頼状相添参り、喜助下東使ニ遣ス。則拙者早朝若代氏へ立寄、夫ヨリ山科家エ参上。従四位面会。御茅輪役人宿所并ニ加役之一件、猶又願立之儀、外東京ニテ西右内、小弥太借用金之儀種々示談致、彼是中飯頂戴。早々引取。

則上立売伊丹宗エ西氏上京カ相尋候処、則昨日勢太上京之由、猶西右内明日カ明夜通シニ上京之由被申、其旨承知早々帰ル。夫ヨリ木曾利宿エ寄、水口氏上京カ相尋申候処、則昨日上京ニテ面会。則田中氏ヨリ頼之一件段々示談。猶又大嶋吉兵エ入来之趣、種々示談。不取敢水口氏、拙者同道ニテ大嶋宅エ参上。面会。田中ヨリ被頼候金子難出来、延引之一件相頼、則池田屋方外ニ口々右大嶋氏ヨリ断申聞被下候様頼置、尤大嶋吉兵エノ分丈ケハ金拾五円位ハ水口拙者兩人ニテモ如何様共可仕間、此段篤(篤)等相頼、早々兩人共引取、則中立売ニテ相分レ、仲忠エ立寄、則先日ヨリ被頼候金之内二兩丈ケ取替貸、勝又(貞)松屋安兵エ金二兩相渡シ払、夫ヨリ所々エ相廻り、彼是夕方辻子エ帰り、夕飯支度、入湯致、止宿之事。

一國元ヨリ善吉正月買物ニ上京致ス。夕飯支度。夫ヨリ橋兵、伊勢長エ歳暮祝儀持參。彼是四ツ時帰リ入湯止宿之事。猶又買物相求メ可申候事。

但シ大工喜兵エ日々入來。門普請相頼參リ扱々困リ人候事。

一廿六日。上々天氣。早朝善吉買物持參、帰國。大工喜兵エ入來。拙者同道ニテ七条エ門之木柵角見分ニ行。則寺町五条上ル処ニテ相分レ、拙者所々エ廻リ、牛之刻ニテ帰宿。中飯支度後早々河貢入來。拙者木曾利宿エ水口氏面會。則山本ニ出合、段々示談。社司之一件、猶又県拝借之一件ニ付県出張所藤野氏面談。水口、拙者兩人罷出候処、藤野多用ニ付面會無之。依而田中精一大嶋氏ヨリ被頼候一件、拙者拾兩、水口氏拾兩出金之約定ニ而若代門ニテ相分レ、水口、若代氏へ行、拙者帰宿。則河貢夕飯支度シテ早々上エ帰ル。為吉田中村ヨリ五郎書状以帰ル。夕飯酒支度。喜市入來。是又引取。拙者へ大工キ兵エ入來。門一式請負余一物皆式金五拾兩ニ約定引取、明日金廿兩相渡ス約定。拙者夫ヨリ入湯止宿之事。

廿七日。上々天氣。早朝為吉伊丹屋エ西氏上京相尋ニ遣シ候処、今ニ上京無之旨申帰リ、上京次第申遣シ候事申事ニ候。

一大嶋吉兵衛入來。段々示談。金札拾兩相渡シ、外ニハ右同人ヨリ断之由頼置候而早々引取之事。猶又池田屋并山本入來。面會不致。右金子頼置、尤山本書殘シ、早々帰ル。引続水口氏入來ニテ昨夜藤野氏面會之次第示談有之。中飯酒支度。然ル処河貢入來。則金廿兩取替渡シ、早々兩人共引取、為吉、鈴木氏使、多氏、山科氏、伊丹宗、右口々使ニ遣シ候テ、國元帰國之支度致ス。然ル処喜助、尚為吉所々使ニ遣シ、且又お勝一件、木村氏入來。伏見乳母入來。実ニ大昆雜、彼是夕方猶又外人万治掛り來ル。拙者夕飯支度。入湯致シ止宿之事。

一廿八日。上々天氣。早朝帰國之支度、彼是五ツ時後、拙者、為吉、喜助召連帰宅ス。則杉阪橋政中飯支度。夫ヨリ鳴之堂小休。彼是夕方西内宅エ寄、右内井上氏面會。則金談段々引合、尤山科家西借用金、是又引合致、酒肴夕飯頂戴。夜五ツ時ニ相成、善吉迎ニ來ル。夫ヨリ

早々引取、庄屋ニ挨拶寄、長兵エ面会。夜五ツ半時ニ帰宅ス。夫ヨリ入湯、致止宿之事。

覚

巳年正月晦日

一入金八兩 〈改〉

河小源太京都江持参

一入金札七拾六兩考步考朱 〈改〉

右同人、同断持参ス

一入錢考貫三百四拾文 〈改〉

右同人、右同断持参

二月朔日  
一入錢三拾六文 〈写〉

湯錢入用

一入錢考兩考步一朱 写

下立荒河内屋清兵衛足袋六足

二日  
一入錢百五拾文 〈写〉

代払  
髪月代考ツ代払入用

一入錢三拾六文 〈写〉

湯錢入用

一入錢考三歩 〈写〉

中江村西右内、当座借用分入

一入錢考拾兩 写

小島平八郎、但考兩札借用分入

一入錢考步 〈写〉

山本氏斎藤先生菓子考箱代

一入錢考步 〈写〉

山本氏斎藤先生菓子考箱代

一入錢考步 〈写〉

山本氏斎藤先生菓子考箱代

一入錢考步 〈写〉

山本氏斎藤先生菓子考箱代

一入錢考步 〈写〉

山本氏斎藤先生菓子考箱代

一入錢考步 〈写〉

山本氏斎藤先生菓子考箱代

一入錢考步 〈写〉

山本氏斎藤先生菓子考箱代

一入錢考步 〈写〉

山本氏斎藤先生菓子考箱代

前払分ニ高相渡濟  
室町木曾屋利兵衛、水口拙者  
八ヶ村用年玉遣ス扣へ  
但国方社司惣代用

二月二日  
一入金札七兩式步三朱

一入金札七兩式步三朱 〈写〉

一入金札七兩式步三朱 〈写〉

室町木曾屋利兵衛水口河惠拙者家来式人泊り造用分ニ高

一入金札七兩式步三朱 〈写〉

但金拾兩渡ス、式兩考分一朱

一入金札七兩式步三朱 〈写〉

ト五百文戻り入、外ニ木具又へ御札台改七ツ返濟考ツ残り

一入金札七兩式步三朱 〈写〉

有事

三日  
一入金札百五拾文 〈写〉

金札兩替ニ付金考朱ト式百五拾文切賃入用相渡ス

一入金札拾兩 〈写〉

小島平八郎当座分直ニ戻ス、返濟ス

一入金札拾兩 〈写〉

山本先生江民部飯代白米四斗

一入金札拾兩 〈写〉

代之端錢扣へ渡ス

一入金札式朱 〈写〉

国分たばこ半玉代払相渡ス

一入金札式朱 〈写〉

湯錢入用

一入金札式朱 〈写〉

たばこ代払

一入金札式朱 〈写〉

湯錢入用

一入金札式朱 〈写〉

たばこ代払

一入金札式朱 〈写〉

湯錢入用

一入金札式朱 〈写〉

たばこ代払

一入金札式朱 〈写〉

湯錢入用



一〇。〱金札三步三朱 〱写

三条丹波屋新兵衛祝儀下駄引  
釣りそうり三足代払

一〇。〱金札壹朱 〱写

三条床喜三郎四ツ代髪月代分  
払渡ス

一〇。〱金札壹朱 〱写

右同人別段祝儀遣ス、入用  
姉小路妙見宮様御膳料辰年中

一〇。〱金札壹歩 〱写

之分辻子へ相渡ス  
辻子南芝居たいこ二付遣ス分

一〇。〱金札貳朱 〱写

かし  
丸太町藤屋清右衛門払分卯極

二月五日  
一〇。〱金札六兩壹歩ト錢四百 〱写

月分〆高、辰年中分〆高払相  
渡ス

六日  
一〇。〱錢貳百五拾文 〱写

白無人小袖直シ物代払入用  
繩手茶盆上壹枚代払渡ス

一〇。〱金札壹歩 〱写

祇園さいせん入用  
北村花之家ニ而中飯代之内扣

一〇。〱錢拾貳文 〱写

へ払  
松原下村大丸店ニ而色々買物  
代払分〆高相渡ス

釣り 百三拾貳文 戻り入

一〇。〱金札貳歩ト貳百文 〱写

四条明石屋久兵衛たばこ入卷  
ツ、きせる代払ニ渡ス

一〇。〱金札壹兩 〱写

錦小路尾張屋万助羅砂どうら  
ん壹ツ代払、金壹分不足分か

六日  
一〇。〱錢三拾六文 〱写

湯錢入用  
高辻松屋宗助両掛ケ上下貳荷

一〇。〱金札貳兩三朱 〱写

代之内手付相渡ス  
松原下村大丸店跡買物代払分

一〇。〱金札三兩壹歩三朱ト 〱写

〆相渡ス  
寺町鉄砲そうじ棒壹本代払分

一〇。〱金札壹朱ニ 〱写

渡ス  
寺町唐物屋色々買物代払分〆

二月七日  
一〇。〱金札七兩貳朱ニ 〱写

高相渡ス  
寺町唐物屋色々買物代払分〆

釣り 貳百拾貳文 戻り入

蜂三津壹徳利代払入用

一〇。〱金札壹朱ニ 〱写

釣り 七拾貳文 戻り入  
させ類羅を仕替壹本代払

一〇。〱錢三拾六文 〱写

女今川子供本壹冊代払



代払

一〇〇〇〃三拾六文 〈写〉

湯錢入用

一十三日 一〇〇〇〃貳百五拾文 〈写〉

土産まんぢう貳拾代払

一〇〇〃三拾六文 〈写〉

鳴之堂地藏尊さいせん入用

一入〇〇〃金札壹朱 〈写〉

民部山本家米代外ニ兩替切賃

入り 四百五十文扣之所へ河庄戻

釣り貳百文 戻ス

一〇〇〇〃錢四拾八文 〈写〉

山岡隊帰国ニ付一宮大明神御

靈大明神さいせん入用

入金札ノ金札貳拾兩三步壹朱 惣入金高

〈写〉

外ニ元金札七拾六兩壹歩壹朱 元持参有高

〈写〉

合金札九拾七兩貳朱

〈写〉

外ニ正金八兩 元持参有之分

此処江出金札 〆金札九拾三兩 惣口々出金高

〈写〉

正金壹朱

差引 金札四兩貳朱ト 正金七兩三步三朱 差引之処

〈写〉

此処江改 金札四兩三朱ト 正金七兩三步三朱 改値ニ有之也

〈写〉

さし引 金札壹朱

差引過上ニ相成正金出入合申

候事

〈写〉

元持参入分 〆錢四貫九百七拾貳文 元持参惣入金高

〈写〉

此処江出分 〆錢四貫五百拾六文 惣口々出高

〈写〉

差引 四百五拾六文 差引之処

〈写〉

此処改 四百七拾九文 改値ニ有之也

〈写〉

さし引 貳拾三文 差引過上ニ相成吟味之事〈写〉

此内 文錢四拾八文 余之置者也引

差引 改四百三拾壹文 改有之也

〈写〉

右之通出入勘定相済申候、以上

〈写〉

右有之、尤ニ重同様之事ニ候也 〆有之之印

明治貳巳年二月十三日帰宅ス

覚

一 巳二月廿六日 入金札百壹兩三朱 改小源太京都へ持参致ス

改小源太京都へ持参致ス

一入正金七兩三步三朱  
一入錢四百三拾毫文

右同断持參  
右同断持參

一金札壹朱ト貳百五拾文

黒大豆入布袋壹ツ代払入用

一七拾貳文

拙者小弥太貳人湯錢入用  
屯所着ニ付賄くし(忍)かれ五把代

一金札貳拾兩

大宮茂兵衛黒打掛ヶ杓枚代金  
拾六兩貳分之處渡ス

一金札壹朱

払入用

一入金札壹兩

岡本家内よりおかね紙入直し  
代之処受取、此表へ入り

廿七日  
一金三兩

御所様御掛役廻札黒大豆壹斗  
貳升代払、但壹々七百五拾文

一金札貳兩

河原林小弥太着用物小遣手付  
寺町ニ而相渡ス

づゝ、内金貳兩三朱ニ候也

釣り錢札七貫八百文

戻り入

廿八日分  
一錢百五拾文

髮月壹ツ代払  
湯錢入用払

一錢札壹貫文

竹之子五百匁屯所入用分払

一三拾六文

金札兩替之分此表を出ス渡ス

一〃杓貫貳百文  
二月廿八日

たばこ半玉代払

一三貫文

右兩替此表入

一錢貳貫百文  
廿九日

京屋中飯杓人分代払入用

一入金札壹歩杓朱

一金杓朱

屯所造用買物之内□か□五枚  
代扣

一錢三拾六文  
三月朔日

湯錢入用

代扣

一金札壹朱

屯所入用金頭白ミそ玉子代扣  
へ、但し西右、河大、河小弥  
太三人割扣へ払

晦日  
一入金札壹兩貳歩

辻子ニ而当座借用入り

二日

平野屋九兵衛屯所入用、米代  
之内相渡ス

一金札壹兩

松屋宗助兩掛ヶ杓荷手付扣相  
渡ス

一金札拾兩

河原林小弥太江戸行ニ付買物  
代之内取替かし

一金札壹朱

四条明石屋ニ而金物直し代払  
渡ス

一金札四兩

河原林小弥太江戸行ニ付買物  
代之内取替かし

一金札貳兩貳歩貳朱

白輪子引とき杓枚代払渡ス

一金札四兩

河原林小弥太江戸行ニ付買物  
代之内取替かし

一金札壹兩

西右内上長者町渡し之内取替  
賃シ

灰屋谷利作り持合分引、残り  
皆済受取入り

一金札壹朱

右同人へ安清払分相渡かし

三月十三日  
一錢三拾六文

湯錢入用払

一金札壹兩貳步貳朱

竹屋町鎌倉屋陣笠壹ツ代払渡

四月  
一入金札壹步

御支度御下り金之内当座小札  
之分借用入り

一金札壹步

鴨川名産老箱代払、長州長松  
先生江進上

一金札壹朱

兩掛ケ札并小札代扣へ和兵衛  
へ渡ス

一正金三兩

河原林正親江出府ニ付用意金  
分相渡ス

一入金札拾兩

山科出雲守嵯峨大八木庄右エ  
門材木代之内受取入

一金札拾貳兩

右同人へ右同断相渡ス

一金札壹朱

屯所造用之内わかめ代貳百文  
扣へ分へ佐市へ相渡ス

一金札壹步貳朱

長州長松様門直吉下部へ心付  
遣ス入用

五日  
一金札三歩ト  
へ。四百五拾文

燈灯馬乗一張張替老張弓張一  
張代払入用

一金札壹步

河大、河小分払之内扣へ

一錢百五拾文

髪月代壹ツ代払入用

一金札貳兩

河原林小弥太買物代之内相渡

一入金札壹兩壹朱

西右内より小扣分請取入り  
久美浜知県事京都る馬路へ御  
出立ニ付、藤野る水口氏江之

三日  
一金札五兩

右同人買物色々代之処へ相渡  
ス

一金札壹兩壹步

飛脚賃駕源払扣へ  
河原林小弥太買物扣分支度金

一入金札六兩

上黒田村半兵衛組合灰屋枋之  
木山手銀之内金四兩貳部壹朱

一入金札拾三兩

内る請取戻り入り

一入金札三兩三步三朱ト

百貳拾八文

一金札壹歩

右御東幸ニ付諸扣物口々へ高  
分受取入り  
御支度御下金之内当借分戻ス

一入金札壹朱 戻り入  
釣り貳百文

塩式俵代間違分相渡ス

一金札壹歩

濟

御支度御下金之内当借分戻ス

一錢百文

戻り入り

西源吉髪月代袴之内かし

一金札壹歩

六日  
供奉兩掛ヶ外ニミの根り紐壹  
文代外ニ屯所入用之分扣へ

一入金札壹朱

國元へ遣ス土産し□め代払渡  
ス

三月七日  
釣り百四拾文 戻り入

一金札五兩

小川若代四郎左衛門、小弥太  
当借用分之内皆返弁拙者直ニ

一入金札壹兩貳歩

戻り入り

鍵屋宗右衛門、西右内たばこ  
代払

一金札壹歩

二月十五日分屯所入用分、則  
本多氏入来ニ付着代京屋払扣  
渡ス

一錢四拾八文

湯銭入用

一入金札壹兩貳歩

西右内たはこ代預り入り

一入金札壹歩

堀川中立売京屋まむし貳ッ河  
庄兩人分払入用

一入金札四兩三步

藤野近江守小島平八大豆代之  
分請取入り

三月八日  
一入金札壹歩

同所京屋茶碗蒸式ッうなき式  
朱宗十郎見立ニ付御酒肴入用  
払渡ス

一金札三步

塩式俵代払、夫為吉相渡ス

一錢百文

雪駄直し代入用

一金札壹歩

家来為吉買物色々代渡ス

九日  
一四拾八文

湯銭分入用  
河原林庄五郎山国下村行飛脚

一錢百文

兩掛ヶ台々紐代払入用

一入金札壹兩貳歩

へ駕源へ相渡分受取入  
屯所入用、嵯峨木屋小兵衛中

割木駄賃三月朔日三日分計音

吉へ相渡ス扣へ

一入錢四百文

河原林清三郎木場ニ而当座か

り、右之分へ渡ス、入り

箱女たばこ入亭ッ代払入用

馬具五合代払入用

湯錢入用払

たばこ代払入用

石羽山太神宮御さいせん入用

杉楊枝四把代払入用

辻子ニ而上酒五合代払入用

鶏久ニ而ひる代払入用

湯錢入用

西右内殿之内おつねどの江州

行取替分かし

道場ニ而茶料入用

施錢入用

湯錢入用

寺町服部屋馬乗袴沓豆代手付

十二日  
一金札沓歩

一入錢貳貫百拾貳文

一拾貳文

一〃百五拾文

一〃貳百文

一〃百文

一〃貳百文

一金札三朱ニ

一〃釣り八拾四文

一金札貳朱

一錢四百文

一〃

一〃貳百文

一金札沓歩

一錢六文

一〃

一金札貳歩沓朱ト貳百文

一〃

一錢貳百文

繩手ニ而錢兩替相渡ス

右兩替之分請取入り

八坂神社參詣さいせん入用

休足茶料入用

八坂神社祈禱料入用

御燈明料入用

御札料入用

花の家中飯代入用払

戻り入り

八坂神社御千度代參廻り料入

用

楊枝拾本はみがきニ沓把代払

入用

たばこ代払入用

鶏久ニ而ひる代払入用

三宅八幡宮様赤山大明神さい

せん入用

山鼻平八店ニ而中飯酒肴代入

用

三宅八幡宮ニ而茶所餅代入用

一入〃四百文  
材龜内おかね平八店ニ而受取

三月十三日  
又〃百文入也

入り

戻り入

西右内ぬか代共相渡ス

一金札貳朱

近藤氏おはな心付ケ遣ス入用

一金札壹歩

堀川京屋弘分屯所入用扣へ相

一金札壹朱ト七拾貳文

浦辻筆八本代払入用

一入金札壹歩

渡ス

一錢四拾八文

湯錢入用

一入錢百文

西源三郎より屯所取替分此表

一〃貳拾四文

衆金物釘四本代払入用

一入金札壹貳歩

江受取入り

一金札壹歩

桑名宿々時雨蛤送り大津人

一入金札壹貳歩

寺町服部屋与兵衛馬乗扣番卷

足卷人代相渡ス、但相(カ)ハメ四

一錢四拾八文

足代、夫宇之助相渡ス

百文つゝ

一〃百貳拾四文

湯錢入用払

〃 釣り卷貳百四拾四文

戻り入り

一〃百貳拾四文

屯所造用わかめ代宇之助相渡

一金札貳両

津国屋弥兵衛屯所宿料二月分

一三月十五日

屯所造用こんやく代扣へ払入

扣相渡ス

一錢貳百文

用印札代共渡ス

一金札壹両貳式歩貳朱ニ

右同人屯所割木油ろうそく代

一金札貳両

寺町二条上ル大黒屋源七羅砂

弘分相渡ス

一〃

割羽織袴枚代手付金相渡ス

但相場八貫四百文つゝ

一金札三朱

右同人羅砂耳帶袴筋代払相渡

〃 釣り百貳拾四文

河原林庄五郎子供初者役入仕

一〃

ス

一金札壹歩三朱ニ

立真綿代扣へ相渡ス

一〃

ス

〃 釣り貳百貳拾四文

戻り入り

一〃

印

八ヶ村名主年礼ニ付入用木具

一金札四両貳式歩貳朱

鳥屋庄三郎屯所酒入用代外ニ

一〃

⑤貳百文

屋又右エ門色々台片木代払扣



一 錢四百文

物指沓本羅砂ほこり取沓ッ代

一 錢四百文

女あんま沓度分之処へ夫宇之

払入用

助渡ス

一 金札貳朱

堀川柳屋子供日傘沓本代払渡

一 錢貳百五拾文

わらじ紐代払入用

ス

一 金札沓朱ト  
百五拾文

弁当籠沓ッ代払相渡入用

一 錢拾貳文

北野天満宮様御さいせん入用

一 錢三百三拾貳文

土産まんぢう貳拾代払

一 金札貳步沓朱ト貳百文

丹波屋新兵衛子供草履下駄曳

一 〃百文

堂之庭菊繪糖少々代払入用

釣り代払相渡ス

一 〃〃三文

鳴之堂地藏尊さいせん入用

一 錢貳百五拾文

辻子ニ面白味噲代払相渡ス

一 〃〃三文

一 金札貳朱

鶏久ニ而ひる代払入用

入金札分

元金札持参之分高

一 金札四両貳步

辻子亀次郎江脇差沓本代払渡

又外ニ元金札百沓両三朱

元金札持参之分高

ス

合而金札百八拾五両三歩

金高

一 錢三拾貳文

拙者印札三枚代払入用

此処江

金札百三両貳步貳朱 惣口々出金高

一 金札貳步三朱

吉田屋嘉兵衛藤原井堰掛り五

差引

差引之処

ケ村前川掛り之節肴代入用屯

金札八拾貳両貳朱

改儲ニ有也

所分扣払

此処江改

金札八拾貳両沓步貳朱

一 金札沓步貳朱

脇差下ケ紐沓筋代払入用

さし引

差引過上分吟味之事

一 金札沓步

国分たばこ沓玉代払入用

金札沓步

右之外

一 金札沓步

堀川ニ而金巻杖沓本代払

正金七両三歩三朱

元持参金正ミ高

一 錢四拾八文

湯錢入用

此内

正金三両

惣出金高引

一 〃貳百文

屯所肴代□ひ代払入用

引残り

正金四両三歩三朱 差引之処改儲ニ有高也

錢入分元持參分  
一錢四拾四貫四百貳拾四文 元持參分錢惣口々入分錢

此処江出分

一錢拾四貫三百三拾七文 惣口々出錢高

差引 錢八拾七文 差引之処

此処改

錢百九拾五文 改錢ニ有也

さし引 百八文

差引過上ニ相成、尤吟味致ス  
事

右之通出入勘定錢ニ相濟如件

明治二巳年三月十七日 帰宅

覚

巳年三月廿六日

一入正金四兩三步三朱

改元持參上京

一入金札百貳拾五兩

右同断持參

一入錢七百八文

右同断持參

一〃百文

船水休足ニ付茶代扣入用

一〃百七拾貳文

杉坂はし政宿ニ而わらし式足

一〃百文

代払、但丹久分共

一〃百文

入湯錢入用分家来共払

一金札壹兩

若州高浜丹波屋久太夫買物分

三月廿七日  
一錢貳百文

取替屯所ニ而かし

髪月代沓ッ代払

一金札五兩貳分三朱ト百文

寺町二条大黒屋羅砂羽織沓枚

一金札壹兩

跡金皆濟相渡ス払

一金札壹朱ト三百拾八文

右同所硯墨代払渡ス入用

一金札壹兩

竹屋町鎌倉屋日笠沓かい代払

一金札壹朱ト

堀川塩入鉢沓ッ代払入用

鈎り百四拾八文

戻り入

一金札貳步沓朱

服部屋与兵衛袴沓足仕立直し

鈎り百四拾八文

代払渡入用

一金札貳兩沓步沓朱

寺町二条角雨合羽沓枚代払渡

一金札壹步沓朱

ス

一金札壹步沓朱ニ

堀川鳥安ニ而夕飯、酒肴代業

鈎り四百拾六文

室殿出願届ケニ付入用払渡ス

一金札貳朱

戻り入

一錢四拾八文

国分たばこ半玉代払入用

一錢四拾八文

湯錢入用

一金札貳步沓朱

屯所こしの物五貫目炭沓俵代

一金札貳朱

入用、但与七殿渡ス

一金札貳朱

右同所造用賄口々九百貳拾貳

四月朔日  
一 錢四拾八文

一金札壹步壹朱ニ

一 鈎り百五拾文  
四月朔日  
一金札五兩

一金札貳步

一 錢百文

一 〃〃〃  
三百五拾文

一金札拾兩

一 錢八拾四文

一 〃〃〃  
拾貳文

出金札

一 〃〃〃  
金札貳拾七兩三步

此処五  
元金札百貳拾五兩

文与七扣分相渡ス

湯錢壹人分入用

吉田屋嘉兵衛看代、但し藤原

井堰掛り之分相渡ス

戻り入

平野屋九兵衛屯所米代之内先

不足之分扣へ相渡ス

屯所入用分西氏昨冬附出し有

之分与七〇かりニ付扣へ相渡

ス

右こしの物代鈎り、但炭代鈎

り、但炭代共戻り入り

まんぢう式十代払入用

安居院布屋弥兵衛古手品く代

之内へ野長へ相渡ス

わらじ壹足代払入用

鳴之堂地藏尊さいせん入用

差引  
金札九拾七兩壹步 差引之処

右之通改鍵ニ有之、出入勘定合申候也

外ニ正金出入無之元持参之儘ニ有之事

錢元持参入錢

一 〃〃〃  
錢壹貫五百貳拾六文

此処五  
一 〃〃〃  
錢壹貫五百四拾四文

差引 錢拾八文

候事

当改  
錢百八拾文 改鍵ニ有也

都合錢貳百貳文

間違ニ而過上ニ相成篤号吟味

致事

右之通金錢出入勘定如斯ニ御座候、依而有高之通入帳致如件

巳年四月朔日掃宅

覚

六月九日

一入正金四兩三步三朱

一入金札三百五拾三兩

一入錢九百文

河原林小源太京都江持参

右同人同断、此表入分

右同人同断、此表へ入分

一〃〃八拾四文  
一金札沓歩式朱卜百六拾四文

杉坂に而わらじ沓足代払入用  
堀川鳥安ニ而夕飯酒肴代入用  
払渡ス

一金札式拾兩

室町松屋安兵衛払分内へ相渡ス

十日  
一錢四拾八文

湯錢之入用

一錢拾六文  
十三日  
一〃〃四拾八文

東京行手紙入用のり代払  
湯錢入用

一金札式朱

三条みす屋ニ而針代払渡ス

一金札三兩沓歩

寺町服部屋与兵衛馬乗十番沓

一金札三兩式歩

寺町湯屋源兵衛茶壺沓斤入沓  
ッ代湯煎沓ッ代共払、但し茶

一金札沓兩

足代払入用

材木屋亀次郎小遣イ之分相渡

一金札式朱

坪残り分金貳兩分

一金札沓兩

ス

一金札式朱

浦辻清吾ニ而筆代払相渡ス

一金札沓歩式朱

貸下駄四足代払入用

一金札沓歩

三条堀川辻雪駄沓足代払

一金式拾五兩

新門前通谷尾卯兵衛拵付刀沓

一錢三百文  
釣り三百文 戻り入

一錢三百文

東京書状ニ付水繩雨合羽代入用

一金札沓兩

本拾八兩、同參添沓本代三兩

六月十一日  
一金札八兩三步

油小路下村利助絹上布沓反高

一錢貳百文

式歩、かいけん沓本代三步式

六月十一日  
一金札八兩三步

出高沓反代おかね分

一錢貳百文

朱、半小柄沓ッ代三步式朱、

一金札六兩

二条近江屋吉兵衛長刀式振代

六月十四日  
一金札沓兩

メ金札廿三兩沓歩高、差引沓

一金札七拾兩

袋沓代払入用

六月十四日  
一金札沓兩

兩三步過上

十二月  
一金札七拾兩

江戸河原林小弥太、西右内、  
河原林正親、則三拾兩西右内

十五日  
一錢貳百文

但し辻子材龜宅ニ而

十二月  
一金札七拾兩

分渡ス、但伝馬所へ出ス、扣

一錢貳百文

六角かくすべ之品三本代払

十二月  
一金札七拾兩

竹屋町近江屋吉兵衛鏡櫃沓荷

一金札式兩

代払

一 錢四拾文

美濃紙貳枚代払入用

渡ス

一 金札壹歩貳朱ト三百文

葉室殿暑中御見舞黒大豆貳升

一 金札貳朱

上嵯峨小林氏白砂糖壹袋代払入用

一 金札壹歩壹朱

山科家多氏江暑中御見舞砂糖

一 金札五兩

小川金屋又兵衛たんす長持内たん□台内たん唐金巾壹丸古手附相渡ス

一 金札壹朱

代払入用

一 錢四拾八文

湯錢入用

一 入錢五百五拾文

右兩替請取入り

一 〃〃百文

物尺貳本代払

一 〃〃六拾四文

右見舞包ニ付中長水引貳把代払入用

一 金札三歩三朱

柏屋善兵衛針差壹本代払相渡ス入用

一 〃〃六拾四文

雪駄直し代払入用

一 金札壹歩壹朱

杉楊枝箸代練糸うちわ代共払相渡ス

一 〃〃四拾八文

堀川金高ニ而鉄壹丁千枚き里貳丁代払

一 金札壹歩

白砂糖壹斤代払入用

一 金札三朱ニ

高辻柏屋善兵衛たんす三卒、長持貳指代、駄賃共払相渡ス、夫喜助遣ス

一 金札貳式朱

三郎酒壹斗四升貳合五勺代払扣へ

一 〃〃六拾四文

六月十七日 戻り入り

一 金札壹朱

屯所入用京屋茶わん壹ツ代払

一 〃〃四拾八文

六月廿一日

一 金札五兩

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 〃〃四拾八文

湯錢入用

一 〃〃百文

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 〃〃六拾四文

材木屋拙者米代分おかねへ相

一 〃〃百文

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 〃〃六拾四文

戻り入り

一 〃〃百文

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 〃〃六拾四文

湯錢入用

一 〃〃百文

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 〃〃六拾四文

材木屋拙者米代分おかねへ相

一 〃〃百文

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 〃〃六拾四文

戻り入り

一 〃〃百文

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 〃〃六拾四文

湯錢入用

一 〃〃百文

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 〃〃六拾四文

材木屋拙者米代分おかねへ相

一 〃〃百文

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 〃〃六拾四文

戻り入り

一 〃〃百文

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 〃〃六拾四文

湯錢入用

一 〃〃百文

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 〃〃六拾四文

材木屋拙者米代分おかねへ相

一 〃〃百文

屯所入用平野屋九兵衛米代不足之内屯代与七へ相渡ス

一 金札六兩

屯所入用家賃三月より五月迄

三ヶ月分津国屋与兵衛相渡ス

一 金札貳朱

土産菓子代払入用

一 金札壹步

飛脚幸助菜刀壹丁糸代共杉坂

ニ而相渡ス

一 入金札五兩

野上長兵衛屯所入用之内則飛

脚幸助杉坂ニ而受取入り

一 錢拾貳文

鳴之堂地藏尊さいせん入用

出金札

入金札百八拾五兩貳步貳朱 惣出金高

元持參金札三百五拾三兩 元金持參高

又外ニ金札五兩 惣入金札高

合金札三百五拾八兩

差引

金札百七拾貳兩壹步貳朱

差引之処

又外ニ正金四兩三步三朱

正金出入無之候ニ付元持參之

通り也

右之通差引勘定出入合申候処改ニ儲ニ有之候、以上

錢入分、貳貫百四文 惣入錢高

又外ニ九百文 元持參分高

合錢 三貫四文

此処江出錢分

入金札六百八文

惣出錢高

差引

壹貫四百文

差引之処

此処改

壹貫四百四拾八文

改儲ニ有之也

さし引 四拾八文

差引過上吟味味致ス事

右之通金札錢出入勘定如斯御座候、依而有高之通入帳致如件

巳年六月廿一日掃宅

覚

巳年八月朔日

一 入金札百五拾五兩

河原林小源太京都行ニ付持參

一 入錢六百七拾貳文

右同人京都江持參

一 百文

杉坂ニ而わらじ壹足代払入用

一 百四拾八文

湯錢三人分入用

一 百四拾八文

丸太町藤屋濱右衛門七月前払

一 百四拾八文

分、高相渡ス

一 百四拾八文

戻り入

一 錢四拾八文

湯錢入用

一 金札壹兩貳步

大小下ヶ紐壹組代払

一 金札貳步貳朱

四条下村店油元結代払

釣り四拾八文 戻り入り

一金札貳朱

ひかん茶壺廻り代払入用

八月六日 一金札壹歩

藤屋槌兵衛保命酒四合代払、  
但見舞之分

一錢百文

清水ニ而茶料入用

一金札三朱

色々油元結楊枝代払

一〃百七拾貳文

髪月代沓ツ代払

釣り七百分

戻り入り

材木屋おかね当座分かし

一錢四拾八文

湯銭入用

一錢三百四拾文

湯銭入用

一金札貳兩

拙者木綿ろう沓反代払

一〃七拾貳文

材木屋おかね皆々飯代之内渡

一金札壹兩

辻子ニ而着屋払分入用渡ス

一金札兩沓歩貳朱

金屋又兵衛紋付式枚染代地代  
共材金へ渡ス

一金札拾兩

室町松屋安兵衛衞束常衣代之  
内払渡ス、夫喜助

一金札壹兩

材木屋おかね皆々飯代之内渡

一金札貳兩沓歩貳朱

東洞院川嶋屋喜助ふすまふち  
四組代払

一錢百三拾貳文

堀川鉄屋源兵衛曳手釘四拾本  
代払

一金札八兩

松原下村大丸店色々おかね買  
もの代払入用

一錢百三拾貳文

堀川出水加賀屋甚三郎七月前  
代払

釣り五百八拾八文 戻ス

脇金直し代払入用

一金札九兩

堀川出水加賀屋甚三郎七月前  
代払

一錢四百五拾文

山舞紐九尺古手代払相渡ス

一金札壹歩

たばこ沓玉代払相渡ス

一金札貳歩

長谷川氏見料入用

一金札壹歩

杉坂はし政七月後下男入用、  
拙者之分相渡し置候

一金札壹朱

東洞院ふすま引手三組代払入  
用

一分歸京之節  
一金札貳朱

下モ近江屋喜助上ぞうり六足  
代灸長持手直し代共渡ス

一金札壹歩貳朱ト百文

東洞院ふすま引手三組代払入  
用

一分歸京之節  
一金札貳朱

下モ近江屋喜助上ぞうり六足  
代灸長持手直し代共渡ス

一金札壹兩

東洞院ふすま引手三組代払入  
用

一分歸京之節  
一金札貳朱

下モ近江屋喜助上ぞうり六足  
代灸長持手直し代共渡ス

一金札壹兩

東洞院ふすま引手三組代払入  
用

一分歸京之節  
一金札貳朱

下モ近江屋喜助上ぞうり六足  
代灸長持手直し代共渡ス

出金

金札四拾三兩壹步壹朱 惣出金高

元金札 百五拾五兩 元小源太持參高

差引 金札百拾壹兩貳步三朱 差引之処

右之通り改健ニ有也 勘定合申候事

元持參入分錢

錢貳貫百四拾文 元持參惣入高

此処江出分

錢壹貫七百貳拾六文 惣出錢高

差引 四百拾四文 差引之処

此処江改錢四百貳拾四文 改健ニ有也

さし引 拾文 差引過上之事

右之通金札錢出入勘定如斯御座候、依而有高之通入帳致如件

巳年八月七日帰宅ス

覚

巳年九月廿七日

一入金札百拾貳兩三朱

河原林小源太京都へ持參

一入金札四百文

右同人同断持參致ス

一〃四拾八文

湯錢入用

一〃廿八日

三条床喜三郎若者祝儀入用

一金札貳朱

一錢四拾八文

一〃廿九日

一〃四拾八文

一〃百文

一〃九月朔日

一〃錢貳拾四文

一〃金札五兩貳步壹朱

一〃金札壹兩壹步三朱

湯錢入用

湯錢入用

たばこ代払入用

谷尾卯兵衛刀拵料之内相渡ス

八坂神社參詣さいせん入用

松原下村大丸店色々買物代払

寺町唐物屋店黒梅林羽織壹代

払渡ス

一〃九月朔日

一〃錢四拾八文

一〃金札壹朱

一〃釣り四百貳拾四文

一〃錢貳百貳拾四文

一〃金札壹步

一〃金札貳朱

一〃釣り貳百五拾文

一〃金札三朱

一〃錢貳百五拾文

一〃金札壹兩

戻り入

湯錢入用

のりはけ壹丁代払

戻り入

たばこ小壹玉代払

小竹拾壹本代払入用

古梅園黒壹丁筆貳本代払

戻り入

敷紙文庫壹ツ代払

摺火打壹箱代払

寺町服部屋与兵衛大小代三兩貳分十ばん袴壹兩貳分貳朱代



金七兩三分預り取替拾月晦日

限り貸

材木屋龜太郎諸弘之分相渡ス

時雨蛤三具代弘

湯錢入用

材木屋龜太郎取次弘分相渡ス

掃村之節わらじ耆足代弘

鳴之堂地藏尊さいせん入用

手付金相渡ス

湯錢入用

ひし安店ニ而黒砂糖耆斤白砂

糖半斤代弘入用

小豆耆升五合代弘

三条丹波屋新助下駄四足代弘

小川金屋又兵衛染物張物代色

く代弘夫喜助渡ス

戻り入

湯錢入用

四条角糸耆把代弘、但河崎之

分

丸屋佐兵衛しゆす半えり式ッ

代弘

黒ひろと半えり四掛ヶ代弘

戻り入

唐木綿うら地式反代弘

大將軍參詣ニ付茶料入用

たばこ耆玉代弘入用

大宮万屋次右衛門脇差耆本正

一錢四拾八文

三日

一金札耆步

一金札三朱

一金札貳步

九月三日

一金札貳兩貳朱

鈎り五百貳拾四文

四日

一錢四拾八文

一金札貳朱

一金札貳步

一金札貳步耆朱

鈎り三百七拾貳文

一金札貳步耆朱

五日

一錢貳拾四文

一金札耆步

一金札拾兩

一金札拾五兩

六日

一金札耆朱

一錢四拾八文

九月七日

一金札耆兩

一錢八拾六文

一拾貳文

出金

元金札四拾四兩三步式朱

元金札百拾貳兩三朱

差引

金札六拾七兩耆步耆朱

此処江金札六拾六兩三步耆朱

錢元持參分入分

錢貳貳貫九拾六文

此処江出分

錢耆貫七拾文

差引 耆貫貳拾六文

此処江 耆貫七拾六文

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

改儲ニ有高

右之通金札錢出入勘定如斯御座候、依而有高之通入帳致如件  
巳年九月七日帰宅ス

覚

九月廿日

一入金札百貳拾貳兩三朱

一入錢七百文

一〃四拾八文

一金札三兩三歩

一金札壹朱

一金札四兩貳朱

一錢四拾八文

一金札壹歩

一金札壹兩貳朱

一錢百文

廿四日  
一金札壹歩

山科家帰宅ニ付進上物着代払  
入用

一金札貳朱

一錢四拾八文

九月廿四日  
一錢四百五拾文

一〃四拾八文

一〃四拾八文

一〃四拾八文

一金札貳兩三分貳朱

一金札壹歩

材木屋龜太ニテ古手物代相渡  
下長者町山形屋紺足袋壹足代  
払

廿八日  
一錢四拾八文

一金札壹兩三歩

綿大相撲見物ニ付四人分入用  
分払

一錢四拾八文

一〃四拾八文

一〃四拾八文

一〃四拾八文

一金札拾六兩

一〃

山科家帰宅ニ付進上物着代払  
入用

たばこ半玉代払入用

湯錢入用

湯錢入用

材亀うるめ代払

湯錢入用

湯錢入用

湯錢入用

材木屋龜太ニテ古手物代相渡

下長者町山形屋紺足袋壹足代

払

戻り入り

戻り入り

戻り入り

戻り入り

湯錢入用

林町仙蔵金百兩之内貸附本人

へ相渡ス

丸屋吉兵衛取替貸附ケ分お金

へ相渡ス

一 金札貳朱

國本小児分干牛丸代与七へ相

渡ス

七十五代七〆八百拾貳文代扣  
相渡ス

一 金札貳兩壹歩

上加茂塀屋亭東京婦京ニ付右  
四人足洗酒肴入用扣へ払

〆 釣り三百拾貳文 戻り入り  
一 金札三分壹朱ト貳百拾貳文

河原林小弥太右同断まんぢう  
四百代八〆三百卅貳文御扣相

一 錢貳百文

戻り入り  
扇子紐貳尺代喜助扣へ払

〆 一 金札壹朱

渡ス  
酒五合代辻子ニ而入用分払渡

一 金札壹兩  
一 九月晦日  
一 錢六拾文

河内小弥太入用ニ付賃相渡ス  
湯錢入用

〆 一 錢四拾八文  
一 錢三拾文  
一 錢貳百五拾文

湯錢入用

一 金札八兩

中立壳屯所家賃六七八九四ヶ  
月分扣相渡ス

〆 一 錢貳百五拾文

材木屋龜太小払分相渡ス  
堂之庭御所柿三ッ代払入用

一 錢七拾貳文

湯錢入用

一 金札三朱

四條松屋唐金巾壹金代払  
四季中飯酒代払入用

元金  
〆 金札百貳拾貳兩三朱 元金札持参方  
又外金札三兩三分壹朱 惣入金〆高

一 入金札三兩三歩壹朱

若代四郎左エ門右白金巾一釜  
代取次受取り

合金札百貳拾六兩  
此処へ出金分  
〆 金札百四兩壹歩三朱 惣出金高

一 金札壹兩

河原林小弥太入用分かし

差引  
金札貳拾壹兩貳歩壹朱 差引之処改髓ニ有也

一 金札五兩

西右内買物代取替賃則勢太へ  
渡ス

錢元入分  
〆 錢貳百三拾六文 元持参分高惣入分高

一 金札三歩壹朱

右同人分、親玉まんぢう三百

此処へ出分  
〆 錢壹百五拾貳文 惣出錢高

差引  
錢七百五拾文 差引之處改健ニ有也

右之通金札錢出入勘定如此御座候、依而有高ノ通入帳致如件  
明治二巳年十月三日帰宅ス

覚

十月十七日改十八日

一入金札百貳拾八兩貳步壹朱

河原林小源太京都江持參ス、

但シ此表へ入り分比内百拾兩

室藏ル出ス

一入錢七百五拾文

右同人同断持參ス、但シ此表

へ入り

湯錢入用

赤万具壹ツ代払

湯錢入用

一金札貳兩

谷尾卯兵衛新刃身一本代金一

兩三分一分谷卯エ口錢遣ス、

相渡濟

一金札壹步

河原林小弥太小札当借分入り

一金札壹朱

三条ニ而小鳥代払入用

一金札三朱ニ

上立売灯燈張替三張弓一本代

釣り百貳拾四文

戻り入

一錢四拾八文

湯錢入用

一〃四百日

河原林小弥太小遣イ分かし

一金札壹兩

材木屋金へ小遣イ相渡ス

十月廿一日

徳用五トク一ツ代払渡ス

一金札三朱

戻り入

釣り三百貳拾四文

七味唐からし一袋代払

一錢四拾八文

大宮角餅代払入用

一〃三百文

たばこ半玉代払入用

一金札貳朱

湯錢入用

一錢四拾八文

東京河原林正親宿料遣ス

一金札六兩

但シ伏原家へ差出ス

廿二日

花楽亭ニ而中飯三人代払入用

一金札貳步

戻り入り

釣り四拾八文

伏原殿役所鈴木保へ相渡ス、

一金札拾五兩

但シ小弥太入用

一金札貳兩貳朱

フランクツト壹枚代払入用

一〃貳拾四文

茶料入用

一金札貳步三朱

永楽屋ニ而手拭壹反代払

払

一金札貳兩貳歩

材木屋龜太内米代扣貸ス相渡

一錢五百三拾貳文

一〃〃百文

扇子箱巻ノシ水引代払  
上ミエ使喜助燭蠟代払

鈎り貳貫文 戻り入り

湯錢入用

湯錢入用

梅園殿献上金小札打替料入用

一錢四拾八文

一錢百四拾八文

杉坂橋政ニ而わらじ一足外ニ  
小遣入用落附之分也

一〃〃四拾八文

一〃〃十月廿六日

鈎り貳拾四文 戻り入り

一〃〃一月廿三日

一金札壹兩

河原林小弥太足袋福林小遣イ  
共渡し賃

一〃〃一月廿三日

一〃〃一月廿三日

一金札貳歩三朱ニ

メリハッテ一足代払入用

一〃〃一月廿三日

一〃〃一月廿三日

梅園殿献上金当座入用高  
右包金口々ニ付間違ニ而差引  
不足

湯錢入用

鈎り貳百文 戻り入り

湯錢入用

一〃〃一月廿三日

一〃〃一月廿三日

錢札兩替ニ付渡ス入用

一錢四拾八文

河原林小弥太茨木村江行小遣  
イ造用分相渡ス

一〃〃一月廿三日

一〃〃一月廿三日

右兩替分入

一金札貳朱

丹波屋新兵衛下駄一足代払

一〃〃一月廿三日

一〃〃一月廿三日

湯錢入用

一金札貳歩貳朱

明石屋久助たはこ入キセル代  
払

一〃〃一月廿三日

一〃〃一月廿三日

谷尾卯兵衛、河彦差添者本  
代、拙者銀金具代相渡ス

一金札貳歩

三条千切屋エリ一ツ代払入用

一〃〃一月廿三日

一〃〃一月廿三日

但し金二兩二分扣貸

鈎り六百貳拾四文 戻り入り

杉原二枚水引一把代払入用

一〃〃一月廿三日

一〃〃一月廿三日

梅園殿下部小遣イ心附ケ相渡  
ス入用

一金札壹兩

お嘉津取替分貸シ

一〃〃一月廿三日

一〃〃一月廿三日

梅園殿普請渡し方之内大工与

一 金札三朱	七丹波屋万蔵へ渡	一 金札壹歩	丹後藤九郎取替賃
一 金札貳朱ト錢貳百文	鈴木保進上菓子代壹箱代分払	一 金札拾兩	梅殿普請付丹波屋万蔵立相渡
一 錢四拾八文	河原林小弥太たはこ代払扣へ	一 金札貳朱	ス
十一月朔日	湯錢入用	一 錢四拾八文	島屋久兵衛ヒル代払渡ス
一 金札壹歩	一条角たはこ壹玉代払入用	十一月四日	湯錢入用
一 金札貳歩	藤村龜太良取替賃渡ス	一 錢四百文	梅殿御役所入用筆二本代払
二日	金屋又兵衛染物代之処相渡ス	一 金札貳兩	梅殿家来齋料御上様渡入用
一 金札貳兩	白米壹斗代払扣分相渡ス	一 金札壹歩	河原林五良役所膳二人分代相渡ス
一 錢貳百五拾文	材木屋龜太良内入用分賃す入用	一 錢五百文	右同人エ渡、外ニ齋少く買入用
一 金札壹兩	梅園殿役所別当はつち料代五良へ相渡ス	一 金札壹歩	梅殿雪駄直シ代宮本氏へ相渡
一 錢四拾八文	御殿ヨリ下り燭蠟壹丁代払渡ス	一 金札貳朱	御上様入用小札替相渡ス
三日	ス	釣り貳百五拾文	戻り入
一 金札貳朱	梅園殿別当ハツチキ附金渡分 <sup>(カ)</sup>	一 金札七兩貳歩	梅殿御上様絵師蘭君挨拶相渡
一 錢	宇野氏扣分相渡ス、都合金三分二朱也	一 金札三兩	ス
一 錢壹貫四百文	若代四良左エ門進上カステイ	一 金札壹歩ト五百文	河原林五良役所入用分渡ス
一 入 金札貳拾兩	ラ一箱代払入用	一 金札壹歩	鍵屋善助年回合引三十代払
	若代氏当座借用請取入り	一 金札壹朱	札仕行当弁壹ツタシ入代払
			図子酒五合代払入用

五日  
一錢四拾八文

十一月五日  
一金札壹兩

一金札壹兩

一金札壹兩

一錢百文

一金札壹步

一金札貳步

鈎り七百五拾文 戻り入

一金札貳朱

一金札貳朱

六日  
鈎り五百文 戻り入

一金札貳兩

一錢七百文

元金持參入金  
元持參惣入金高

此処江出金  
元金札百三拾七兩壹分二朱 惣出金

差引 金札拾壹兩壹分三朱 差引之処

此処エ金札拾壹兩二分壹朱 改健有也

差引 金札三朱

湯錢入用

真綿壹包代払おミツ渡ス

内お米縫紋屋払渡ス

時雨蛤壹包代払

わらじ壹足代払

干牛丸一廻子供兩人代払

親玉まんぢう六十外ニ六十代

四貫二百五拾文払

白砂糖半斤代払年回入用

揚豆腐廿丁代払入用

材亀内米代扣分相渡ス、本人

杉坂橋政ニ払分之内相渡ス

包ニ付間違イト申分間違無

之、尤此分也

元持參入錢  
元持參惣入金高

此処へ出錢  
惣口へ出高

差引 錢壹貫百六拾文

此処へ 改錢壹貫三百文 改健ニ有也

サシ引 錢百四拾文

過上ニ相成、是則小弥太四百  
文貸渡分少く残り有之分

右之通金札錢出入勘定如此御座候、依而有高之通り入帳致如

件

明治二巳年十一月六日帰宅ス

覚

巳年十一月十四日

一入金札貳百七拾六兩壹步  
河原林小源太京都江持參之

一入錢壹貫三百文  
高此処へ入り

一錢四拾八文  
右同人同断持參分此表エ入り

湯錢入用

一〇〇式拾四文	袋沓ト代入用	一金札四兩	梅殿近習役田中主馬賃給金引 当差次之事
一〇〇式拾五文	材木屋亀太内払分相渡ス	一金札三兩	右同所払之内紙屋之分五良渡
一金札拾兩	梅園殿御上刀屋払分之内ニ相 渡、五良立会	一金札壹兩	姉小路表具師利八払分相渡ス
一金札拾兩	若代四良左エ門当借用返済則	一金札三朱	万清灯燈張替代相渡ス
一〇〇式拾兩	藤野氏へ相渡ス	一金札五兩	梅殿大工勘助濟狀四拾五兩相 渡ス、都合五良へ渡ス也
一〇〇式拾兩	梅殿御上様入用分玉江相渡	一〇〇式拾四文	入湯五良兩人袋代共入用
一〇〇式拾兩	役所入用鶏玉ハツ代払	一〇〇式拾四文	梅殿御上様入用おしすへ渡ス
一〇〇式拾兩	錢札兩替渡ス、炭駄賃入用	一〇〇式拾兩	若州くし五本代払渡ス
一〇〇式拾兩	右兩替入用請取入り	一〇〇式拾兩	梅殿近習檜太郎直之進兩人へ 賃シ
一〇〇式拾兩	芹生村孫次郎炭拾五俵代駄賃	一〇〇式拾兩	入湯錢入用五良兩人分
一〇〇式拾兩	午人足式人相渡ス	一〇〇式拾兩	入湯錢入用
一〇〇式拾兩	但シ四貫五百三拾四文 駄賃高也	一〇〇式拾兩	白米沓斗代払相渡ス
一〇〇式拾兩	十一月十六日	一〇〇式拾兩	入湯錢入用
一〇〇式拾兩	梅殿大工勘助出許ニ付段々示	一〇〇式拾兩	入湯錢入用
一〇〇式拾兩	談ニ而相渡ス	一〇〇式拾兩	河原林清三良取替賃シ渡ス
一〇〇式拾兩	湯錢入用	一〇〇式拾兩	天満宮參詣さいせん入用
一〇〇式拾兩	梅殿諸口払分口々高相渡ス	一〇〇式拾兩	白米沓斗代払相渡ス
一〇〇式拾兩	右同断口々端錢九貫八百五拾	一〇〇式拾兩	
一〇〇式拾兩	文渡シ高	一〇〇式拾兩	
一〇〇式拾兩	釣り百五拾文 戻り入り	一〇〇式拾兩	



一金札拾兩  
一錢四貫五百文

東京正親月棒小遺遣ス  
荒神御火焼ミカン一箱マンジ  
ウ七十代喜助エ相渡ス

一金札貳兩

寺町黒羅砂ツホンツツ代払入  
用  
錢札兩替渡ス

一入同五百文  
一同四拾八文

材木屋龜太当借用入り  
入湯錢入用

一金札壹兩壹朱  
一入錢拾貫六百廿四文  
一同四拾八文

右兩替ニテ戻り入り  
入湯錢入用

一廿六日  
一金札貳歩

鶏久ヒル半羽代夫キ助渡ス、  
但シ芝居入用

一金札貳歩三朱

女下駄三尺ハナゴ五足代払相  
渡ス

一金札壹分貳朱

南芝居行ラトン茶中飯代入用  
中水場

一錢四百文

實三ニ目代払渡ス、入用

一金札二朱ト貳百文  
十一月廿六日  
一入金札五兩

右同断ニ付酒代払入用

一金札四兩三分三朱

繩手伯来雷豆袋タヒ二豆メリ  
ヂパン子供トンビ杓黒ハケメ  
リヤスニツ代払

一金札壹兩ト錢六百文

河原林清三郎当座賃分戻り入  
繩手美濃佐夕飯五人前酒肴代  
払入用渡ス

十一月廿八日  
一錢貳百文  
一金札五兩

西条伯来屋ニテスリ火打代払  
材木屋龜太内相渡ス

一錢百文  
廿七日  
一金札貳兩

小弥太兩人分入湯錢入用

一金札壹兩  
一錢四拾八文

同おかね綿糸代払渡ス  
入湯錢入用

一金札貳兩

灰屋和木ノ奥中刈代之内若州  
清蔵エ相渡ス、但シ辻子ニ而

一同四拾八文  
廿九日  
一金札四兩

右同断小弥太分入用

一金札壹兩壹分三朱

四條松村屋店裏地上二反下一  
反代払渡ス入用

一錢五百文

近江屋喜助払分相渡ス  
国元土産マンシウ代払

一金札六兩

四條ニテ羅砂トンビチヨキ右  
二枚代払入用

一同二貫五百文

国分タハコ壹玉代払入用  
元持參金入金共  
メ金札貳百八拾壹兩壹分 元金入金

此処エ出金

金札二百拾八兩壹分一朱 惣出金高

差引 金札六拾二兩三分三朱 差引之処

改金札六拾二兩壹分三朱 改儲ニ有

差引 金札貳分 差引不足ニ成

元持參入分錢

錢拾五貫四拾八文 元持參惣入分高

此処エ出分

錢拾三貫百廿四文 惣出金高

差引 錢壹貫九百廿四文 差引之処

此所エ 改錢八貫三百五拾四文 改儲有

差引 錢六貫四百三拾文 差引過上之事

但シ此金二分二朱ト 百八拾二文

金不足之分此表ニテ出ル

右之通金札錢出入勘定如此御座候、依而有高之通入帳致如件

明治二巳年十一月廿九日帰宅ス

覚

十二月二日

一入金六拾二兩壹分三朱

河原林小源太京都江持參ス

一入錢八貫三百五拾四文  
三日  
一金札貳朱

一錢壹貫五百文

一同壹貫二百五拾文

一同貳百文

十二月三日  
一錢壹貫二百文

四日

一同貳貫文

一金札壹歩

一錢百文  
五日

一金札拾兩

一錢札壹歩

一錢百文

一金札壹兩

一錢百文  
七日

一入金札貳兩

右同人同断此表エ入り分

河原林おゆう髮結エ祝儀遣ス  
分扣貸

右同人髮結添類買物扣貸

たばこ半玉代払入用

河原林小弥太髮月代分貸渡

お勇結納為則金二朱ニ包半紙

二折共扣貸

伯来沓直シ代払渡ス

河原林彦三郎(魚クイ)礼(魚クイ)

貸、但シ金三朱下駄代借用

湯錢兩人入用

大工善兵衛元宅玄関新座鋪

戸障子床渡シ

河原林彦三郎ニシン代之節貸

入湯錢兩人分お勇分扣入用

河原林小弥太足袋外買物代分

相渡ス

入湯錢兩人分入用

材木屋龜太、沢井福林羽織沓

八日  
一金札壹兩三歩

〃  
一金札四兩二分二朱  
〃  
一金札六兩壹歩三朱

十二月八日  
一錢百文  
九日  
①金札貳兩 圓

〃  
一金札三朱

十日  
一入金札拾五兩

〃  
一錢四拾八文  
十一日  
一金札貳拾七兩

〃  
一金札拾五兩

〃  
一入錢二百文

代之内請取入

寺町大黒屋源七〔虫クイ〕 壹ッ

ホシ直シ代払渡ス

右同人羅砂トシヒ一枚代払

右同人サファイ羽織三枚分小弥

太拙者亀太分代払

ダンコ屋壹ッ分代払入用

国方社司一件相談魚宗酒肴代

扣払、外ニ一朱五百文藤野扣

也

河原林小弥太〔虫クイ〕代之内残分

貸

河原林貢る当座借入入り

入湯錢入用

中町鈴木保殿トケ一ッ七ハッ

鉄砲壹丁代、夫小弥太渡ス

梅殿家馬具引当使丹万藏江

貸、但来ル廿五日限

タンコ屋壹ッ分当り此処エ入

〃  
一金札壹朱

十二日  
一錢四拾八文

〃  
一金札二分

〃  
一錢四百文

〃  
一同四拾八文

〃  
一同百文

〃  
十二月十四日  
一金札壹兩

〃  
一金札壹兩壹分ト

〃  
錢六百廿四文

〃  
一金札貳朱

〃  
一金札壹朱

〃  
一入錢六百二拾四文

〃  
一同百文

〃  
一同四拾八文

〃  
十五日  
一同百文

〃  
一同百五拾文

〃  
一同五拾文

〃  
一金札壹朱

〃  
一錢四拾八文

材龜講金之内取替分相渡貸

仕立針代払

寺町三條角シヤホン代払入用

正月箸三十五膳前払入用

入湯錢入用

入湯錢入用

河原林小弥太上袴豆代相渡ス

赤トラ福老枚代払入用

一条角たばこ半玉代払入用

西右内両替相渡ス

右両替請取入り

同福直シ糸代払

入湯錢入用

稻荷竹屋ニテ小休、茶料扣入

用

藤之森御守料喜助エ渡ス

花山稻荷小休、茶料入用

新地ヨリカコ屋酒手遣ス入用

入湯錢入用

一入錢壹貫文

藤之森參詣ニ付材龜ニテ当座

一金札壹分

銅羅シ振附鯨細工代払

十六日  
一金札壹料

借用分入  
棒多羅壹貫目代河彦三郎へ扣

一金札貳兩壹分

松原大丸店淺田進上物反物ニ  
反代払入用

エ分相渡ス

釣リ壹貫百文

四口中飯酒代三人分払入用

一錢四拾八文

入湯錢入用

一金札壹分

四口中飯酒代三人分払入用

十二月十七日  
一錢四拾八文

入湯錢入用

釣リ八文

寺町越後屋紺足袋四足代払

十八日  
一金札貳步

傘壹本代出入方お竹へ払

十二月廿日  
一金札壹兩

寺町越後屋紺足袋四足代払

一錢四拾八文

入湯錢入用

釣リ四百文 戻り入

十九日  
一金札壹分二朱

丸屋丸鯉代払入用

一錢壹貫六拾四文

小弥太縁談ニ付水引代払入用

一入⑨金札二拾兩(四)

林町仙藏ヨリ請取入り

一金札貳分ト五百五拾文

服部屋袴任立直シ代払

一金札三歩

吉邑寛十郎五郎結納ニ付右祝

一金札貳步

小弥太地番一枚代払入用

一錢七拾貳文

儀二百疋焼物料百疋入用

一錢八百文

古梅函筆四本代払入用小印

廿日  
一金札壹兩

入湯錢入用

一入同六百廿四文

右地番ノ釣リ戻り入り

一金札壹兩

油小路下駄屋下駄品々代之処

一金札貳朱

大黒屋澤井脇入切代払龜

一金札拾兩

へ相渡ス、入用

釣リ六百廿四文 戻り入

一金札壹分ト五百文

淺田永安殿五郎結納品々料請

一金札二分貳朱

金巾中形一反代払入用、小弥

一金札壹分

取入り  
白砂一斤黒半斤代払相渡ス

一金札貳分

太四條松村屋金巾紋付一反代

釣リ百四拾八文 戻り入

四條ニテ小弥太下帯二筋代払

一金札壹兩二分一朱

松屋宗助兩掛一荷代払

釣リ百四拾八文 戻り入

四條ニテ小弥太下帯二筋代払

一金札壹分

桐三本入箱壹ツ屬子廿本袋入

代払入用

一 金札壹両壹分

金屋又兵衛染物代之内相渡ス

一 錢四拾八文

入湯銭入用

一 金札三兩

今出川丹後屋吉兵衛傘代払分

高渡

一 金札壹分

戻り入

一 金札五兩

大工喜兵衛請取之分相渡ス

一 金札壹分

羽織エリシン糸代ロウ代共、

但ニツ分渡ス、入用

一 金札壹兩

藤屋清右エ門色々紙代小弥太

入用分払

一 金札壹兩

戻り入

一 金札壹分

戻り入

一 金札壹分

木具屋庄八、小弥太縁談入用

台代払入用

一 金札壹兩

メリハツチ二足代払渡ス、但

一足小弥太分入用

一 金札壹分

小弥太雪駄壹足代払入用

一 金札貳分

戻り入

一 金札貳分

丹波屋新兵衛下駄曳釣り三足

代払、小弥太入用

一 金札壹分ト貳百文

小弥太土産物室来豆代払

一 金札三朱

右同人風呂鋪二枚代払入用

一 金札壹分ト百文

右同人同断分子供帯一筋代払

一 錢五百五拾文

入用

一 錢七百文

右同人持扇子代払入用

一 錢七百文

右同人持用手拭一筋代払

一 金札三朱

御池角小弥太たはこ壹玉代払

一 錢貳百文

柳籠兩掛□台直シ代払入用

一 金札三朱

四條ニテ手満里六ツ代払入用

一 錢七百文

右同人持用手拭一筋代払入用

一 錢七百文

右同人持用手拭一筋代払入用

一 錢七百文

右同人持用手拭一筋代払入用

一 錢七百文

右同人持用手拭一筋代払入用

一 錢七百文

右同人持用手拭一筋代払入用

一 錢七百文

右同人持用手拭一筋代払入用

一 錢七百文

右同人持用手拭一筋代払入用

一 錢七百文

右同人持用手拭一筋代払入用

一 錢七百文

右同人持用手拭一筋代払入用

一 錢七百文

右同人持用手拭一筋代払入用

一 金札壹分

右同断召遣へ御祝儀廿五疋宛

一 金札壹兩二分

四人分入用

一 錢四拾八文

小弥太小遣分遣ス分、入用

一 錢四拾八文

入湯錢小弥太分扣入用

一 金札三分三朱

下駄拾三足祝儀入用分払

一 鈞り四百拾貳文

戻り入り

一 入 金札壹分  
但杉扇子箱壹ツ

河原林小弥太縁談ニ付忠次郎  
祝被下見〔虫クイ〕入り

一 十二月廿三日  
一 入 金札百兩

田中為藏組合細エヨ山手金之  
内使勘仙蔵ヨリ請取入り

一 入 湯錢入用

入湯錢入用

一 錢四拾八文

山国社司入用分本多氏米代之  
内若代昇作へ相渡ス、但シ拜

一 金札二拾兩

任仲ケ間扣分

一 金札四兩

丸屋忠七年回入用分払高相  
渡ス

一 金札壹兩二分

国元正月買物タハコイハシコ  
マメイモ色々代喜助相頼渡  
ス、入用高

一 入 金札百兩

上黒田村半兵衛組合中灰屋栃

一 錢四拾八文  
一 廿五日  
一 金札壹分

ノ木山手金之内請取入り  
入湯錢入用  
床喜三郎髪月代拾六代払相渡  
ス、入用

一 金札二朱

右同所祝儀若者共兩人遣ス、  
入用

一 金札拾兩

材木屋龜太内諸造用分相渡

一 金札貳分二朱

□カ鈕下ケ総一筋代払入用

一 金札貳兩

室町松屋安兵衛分残分渡ス

一 金札貳兩

中立売仲屋おせい取替分貸渡

一 金札貳兩  
一 十二月廿五日  
一 入 金札貳拾兩〔虫クイ〕

大野村林町仙蔵ヨリ元金百兩  
貸□虫クイエ請取入り

一 金札壹分

鳥屋久兵衛鶏代払、夫喜助

一 金札三朱ト五百七拾二文

神酒之口神之□虫クイ壹組代外ニ味  
噌豆腐サニラ一本代払入用

一 錢百文  
一 廿六日  
一 金札拾五兩

入湯錢兩人分入用

一 錢三百五拾文

谷尾仙吉脇サシ刀拵色々代相  
渡ス

一 錢三百五拾文

寺町道ラン腰差直シ代払入用

一金札壹分二朱ニ

寺町サハリカハラケ二組カキ  
立共払入用

一同二百文  
廿八日

楊枝七本代払入用

釣り百五拾文 戻り入

一金札壹兩壹分

竹屋町東洞院南西角七連鉄砲  
ノ玉百束代払入用

一金札貳分

杉坂橋政払分、高江相渡ス、  
少く過上

一金札三朱

錢札兩替相渡出ス  
右兩替請取入

一入金札貳兩二分二朱

材木屋龜太右小口ノ内三口控  
分借用分入り

一入金札貳拾兩  
廿七日

材木屋龜太郎内入用分相渡ス  
大工善兵衛先之分五兩不足門  
請負五拾金之内本人エ相渡ス

元持參金入金

又外ニ元金六拾二兩壹分三朱 元持參金

一 ⑤ 金札拾兩 圓

五拾二ヶ七組掛り大嶋吉兵衛  
取替貸相渡ス

合金札三百三拾二兩壹分一朱 高

一金札壹兩貳分

正月ブリ一本鯨二百目代払入  
用

此処改 金札九拾四兩二分 差引之処

十二月廿七日  
一金札二拾兩

河原林清三郎取替直ニ貸渡ス  
色櫛コウカイカンサン共代払  
相渡ス、則お金へ渡ス

元持參入分錢  
此処改 金札九拾四兩貳分 改礎有也

一金札壹兩

岡部進上物中□半反お幸袖  
〔虫クイ〕 代共相渡ス払

此処エ出分  
此処改 金札九拾四兩貳分 改礎有也

一錢四拾八文

入湯錢入用

差引 錢壹貫九百五拾四文 差引之処  
此処改 錢壹貫九百八拾六文 改礎有也

サシ引 錢三拾二文 差引過上之事

右之通金札出入勘定如此御座候、依而有高之通入帳致如件

明治二巳年十二月廿八日帰宅ス

〔朱〕

〔明治貳年巳三月七日御発駕〕

御東幸ニ附供奉御支度金頂戴金割方之控

一金札七拾九兩貳朱ト

錢七百文

御取次役小佐次右衛門尉殿御

世話ニ而請取入

一金札壹兩貳歩

家来佐市、右同断分請取入

合金札八拾兩貳歩貳朱ト錢七百文

此内

金札貳兩

家来佐市支度金相渡ス、右内

扣へ

金札壹兩貳歩

京都ノ飛脚貳度賃錢扣同人扣

へ

金札壹兩三歩

美の貳かい兩人分代右同人扣

へ

金札壹兩

兩掛ヶ代々内半方分右同人扣

金札貳歩三朱ト百文

御掛り廻勤ニ付山鼻平八中飯

酒肴代扣へ

金札貳歩貳朱ト貳百文

供合羽壹人分代右同人扣へ

金札三朱

供笠壹かん代分払同人扣へ

金札三朱ト貳百文

四季ニ而中飯代同人扣へ

金札壹朱

右同所跡ニ而中飯代之内扣へ

金札壹朱ト五百七拾貳文

布袋壹ツ水繩色々同人扣へ

西右内扣高

又外ニ

金札八兩壹朱ト

壹貫七拾貳文

〔此処江金札八兩三朱西右内江三月五日夜相渡ス

釣り 百貳拾八文 戻り濟へ

金札貳兩三朱

御掛り役方衆廻勤ニ付黒大豆

壹斗貳升代小源太扣へ

金札壹兩

兩掛ヶ代之内半方分右同人扣

へ

金札壹朱ト貳百文

弓張丸灯燈壹張代同人扣へ

金札壹朱ト三百文

用意布袋壹ツ紐代共払同人扣

へ

金札壹朱

兩掛ヶ札代外ニ色々入用物同



人扣へ

金札卷歩ト貳百五拾文

四季ニ而中飯酒代共右同人扣

金札卷朱

わらし貳足水繩屯所入用共同

人扣へ

金札三兩三步貳朱ト

小源太扣高

錢七百五拾文

へ此処江

金札三兩三步三朱ト百貳拾八文

拙者請取済

貳口

合金札拾卷兩三步三朱ト錢卷貫八百貳拾四文

金札六拾八兩貳歩 造用引残り分

此割金札三拾四兩卷歩 貳ツ割卷人分割

右著河原林小弥太、西右内、右之割立会礎ニ相渡申候処実正也、將又家来佐市給金月卷兩貳歩ニ右月給相定召連申候、依而

如件

明治貳巳年三月六日出立之事

奉願口上覚

一 私家役夏越御被 御茅輪製造人儀年来勤任之者ニ御座

候、是迄非官下役之列ニ相瀟罷在候者全ク催計私家役之

下ニ附催ヨリ茂不書上候儀等奉存候、此度 御調被為在

候折柄ニ御座候得者假令之拝領米有無ニ者不相抱非官下

役之列ニ相加へ候様奉願候、夏越御被御茅輪之儀者年中

第一之 御被之儀ニ有之、右相伝勤仕之者ニ茂御座候得

者図書寮下兄部大國下役等之列ニ御座加奉願候、既ニ今

度御再幸ニ附テ茂為調進御用人數中ニ出府仕結構御手宛

月給等茂被下置候得共御茅輪御用茂無滞勤仕罷在候事ニ

御座候得共、偏ニ御隣愍御沙汰ヲ以願之通義御訴客候者

如何計難有仕合可奉存候、此段宜敷御沙汰之程奉願候、

以上

山科出雲守

巳七月

(裏表紙)

丹州山国庄

河原林小源太

本史料の翻刻にあたって「日記」の所蔵者である河原林孟夫氏（河原林安左衛門の曾孫）に多大のお世話になった。記して謝意を表したい。